取扱説明書 - 日本語

FUJITSU Software ServerView Suite

ServerView Event Manager

ServerView Operations Manager V7.10

2015 年 6 月版

DIN EN ISO 9001:2008 に準拠した認証を取得

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、
このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2008
基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を
満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH
www.cognitas.de

著作権および商標

目次

1　はじめに

ServerView イベントマネージャ（以降、イベントマネージャと呼びます) は、ServerView Suite (システム統合管理) のイベント管理コンポーネントです。インストール後は、ServerView Operations Manager (以降、Operations Manager と呼びます) から、このコンポーネントを起動できます。

イベントマネージャ機能には、使い勝手の良い Web ベースのグラフィカルユーザインターフェース（GUI）が提供されていて、システム障害について、信頼性の高い安全な情報を迅速に入手できます。

受信したい実行結果や運用状態のアラームメッセージは、ユーザが定義できます。ネットワークにおけるサーバの可用性はきわめて重要な要因であるため、サーバの可用性が損なわれる可能性のあるすべての動作状態が通知されるようにイベントマネージャを設定します。

ブレードシステムでは、イベントマネージャにより、ブレードシステム本体と個々のサーバブレードの両方からアラームメッセージを受信して、表示できます。デフォルトでは、アラームはブレードシステム全体に割り当てられます。この設定は、任意に変更できます。

イベントマネージャは次のように動作します。予期しないイベントが発生すると、エージェントから SNMP 経由でイベントマネージャにアラーム (トラップ) が送信され、管理用サーバに通知されます。予期しないイベントとは、エラーレポートや、しきい値の超過によるステータス変更などです。

トラップには重要度レベルが割り当てられます。危険、重度、軽度、および情報です。トラップによって起動される動作は、重要度レベルごと、サーバごとに個別に割り当てることができます。アラームの重要度レベルが「**危険**」のイベントは、常にログファイルのアラームログに記録されます。

エージェントのインストール時に、アラームメッセージが Windows イベントログに送信されるように指定することもできます。

1.1 前バージョンからの変更点

本版は ServerView V7.10 のイベントマネージャを対象とし、ServerView V6.30 時点のイベントマネージャのオンラインマニュアル（2014 年 3 月版）の更新版です。

このマニュアルは、最新のソフトウェアステータスを反映するよう更新され、以下の追加機能について説明しています。

– インストレーションマネージャ V11.14.09 時点では、次の 2 枚の ServerView Suite DVD があります。

  – **DVD 1: Installation**（インストレーションマネージャ）

  – **DVD 2: Management and Serviceability**（ServerView Operations Manager Software など）

  このため、9 ページ の「ServerView Suite リンクコレクション」の項が更新されました。

– 最後のメール転送の結果は、ServerView Operations Manager によってログファイルに保存されます（60 ページ の「全般的なメール転送」の項および 64 ページ の「サービスプロバイダへのメールと転送の実行」の項をご覧ください）。

– サードパーティの MIB を統合した後、Linux で **SV Services** を再起動する必要があります（175 ページ の「MIB の統合」の章をご覧ください）。

1.2 ServerView Suite リンクコレクション

ServerView Suite リンクコレクションにより、富士通は ServerView Suite および PRIMERGY サーバに関するさまざまなダウンロードや詳細情報を提供します。

ServerView Suite には、以下のトピックに関するリンクがあります。

- サポートデスク
- マニュアル
- 製品情報
- セキュリティ情報
- ソフトウェアのダウンロード

i ダウンロードには以下が含まれます。

– ServerView Suite の現在のソフトウェアバージョンおよびその他の Readme ファイル。

– ServerView Update Manager により PRIMERGY サーバをアップデートする場合、および ServerView Update Manager Express により個々のサーバをローカルでアップデートする場合の、システムソフトウェアコンポーネントの情報ファイルおよびアップデートセット。

– ServerView Suite のすべてのドキュメントの最新バージョン。

ダウンロードは富士通 Web サーバから無償で入手できます。

PRIMERGY サーバには、以下のトピックに関するリンクがあります。

- サポートデスク
- マニュアル
- 製品情報
- スペアカタログ

ServerView Suite リンク集へのアクセス

ServerView Suite のリンクコレクションへアクセスする方法はいくつかあります。

1. ServerView Operations Manager から。

   ► 開始ページまたはメニューバーで「**ヘルプ**」–「**リンク**」を選択します。

   ServerView Suite リンク集の開始ページが開きます。

2. 富士通マニュアルサーバで ServerView Suite のオンラインドキュメントの開始ページを使用する。

   i 次のリンクを使用して、オンラインドキュメントの開始ページにアクセスします。

   http://manuals.ts.fujitsu.com

   ► 左側の選択リストで「**x86 Servers**」を選択します。

   ► 右側にある「**Selected documents**」の「**PRIMERGY ServerView Links**」をクリックします。

   ServerView Suite リンク集の開始ページが開きます。

3. ServerView Suite DVD 2 から

   ► PRIMERGY ServerView Suite DVD 2 の開始ウィンドウで、「**ServerView Software Products**」を選択します。

   ► メニューバーで「**Links**」を選択します。

   ServerView Suite リンク集の開始ページが開きます。

1.3 ServerView Suite のマニュアル

マニュアルはインターネットからも無料でダウンロードできます。オンラインマニュアルは、*http://manuals.ts.fujitsu.com* の **x86 Servers** のリンク先からダウンロードできます。

ServerView Suite にあるドキュメントの概要およびファイル構造については、ServerView Suite サイトマップ（「**ServerView Suite**」- 「**Site Overview**」）を参照してください。

1.4 表記規約

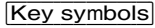
このマニュアルでは以下の表記規則を使用します。

⚠ **注意**	このマークは、怪我、データ損失、装置破損に至る可能性のある危険性を示します。
i	この記号は重要な情報やヒントを強調しています。
►	このマークは、作業を続けるために行う必要のある手順を示します。
太字	説明文中の「**太字**」は、コマンド、メニュー項目、ボタン名、オプション、変数、ファイル名、およびパス名を示します。
固定幅フォント	システム出力は固定幅フォントを使用して示します。
太字の固定幅フォント	キーボードで入力する必要があるコマンドは、セミボールド固定幅フォントで示します。
[Key symbols]	キーボードの表示に従ってキーを示します。大文字での入力を明示的に示す場合は、Shift キーを併記します（例 : A の場合 [[SHIFT]] - [[A]]）。 2 つのキーを同時に押す場合は、2 つのキーをハイフンで連結して示します。

表 1: 表記規約

このマニュアル内のテキストまたはテキストの項への参照は、章または項の見出しと、章または項の開始ページで示します。

画面出力

画面出力は、使用するシステムに一部依存するため、細部がユーザのシステムに表示される出力と正確に一致しない場合があります。また、使用可能なメニュー項目がシステムによって異なる場合もあります。

2 イベントマネージャ

イベントマネージャでは、アラームメッセージをフィルタ処理して転送したり、メッセージの表示方法を指定できます。

監視を行うには、ServerView エージェントを監視対象サーバにインストールします。VMware vSphere ESXi 5 搭載のサーバの場合は、ServerView ESXi 5 CIM Provider をインストールする必要があります。異常な動作状態が発生した場合、ServerView エージェントがアラーム（トラップ）を自動的に管理用サーバに送信します。どの管理用サーバがトラップを受信するかは、ServerView エージェントまたは ServerView ESXi 5 CIM Provider のインストール時に定義されます。管理用サーバに SNMP サービスを設定するときに、トラップの受信元の管理対象サーバを指定します。

イベントマネージャのインストール後、最初にアラームの表示方法と処理方法を設定する必要があります。これには、アラーム設定コンポーネントでアラームルールとフィルタルールを定義します。アラームルールでは、どのサーバから、どのアラームを、どのアクションに対して転送するかを指定します。フィルタルールでは、どのサーバからの、どのアラームを除外するかを指定できます。アラーム設定について、詳しくは、37 ページ の「アラーム設定」の章をご覧ください。

アラームモニタコンポーネントには、設定内容に応じて、受信したアラームが表示されます。アラームモニタにより、アラームリストの編集や、アラーム表示の追加フィルタを指定できます。例えば、どのサーバからの、どのアラームをアラームリストに表示しないか、などを指定できます。アラームモニタについて、詳しくは、19 ページ の「アラームモニタ」の章をご覧ください。

ServerView には一連の MIB があり、イベントマネージャに統合されています。これらの MIB からのトラップを受信して、イベントマネージャで処理できます。既存の MIB を補いたい場合は、サードパーティの MIB をイベントマネージャに追加して統合できます。追加した MIB のトラップも、MIB を有効にしておけば、イベントマネージャで表示できます。

MIB を統合するには、MIB Manager を使用します。MIB Manager は、Windows または Linux にイベントマネージャをインストールする際に追加されます。このツールについての詳細は、175 ページ の「MIB の統合」の章をご覧ください。

VMware vSphere ESXi 5 の CIM Indication

VMware vSphere ESXi 5 を搭載するサーバのイベントは、CIM Indication として提示されます。CIM Indication は ServerView イベントマネージャによって分析され、通常どおりに管理して転送できます。

「**接続テスト**」を使用して、VMware vSphere ESXi 5 サーバへの接続をテストできます（『ServerView Operations Manager』マニュアルを参照）。

i CIM Indication Provider は、以下のオペレーティングシステムで利用できます。

– VMware vSphere ESXi 5

ServerView ESXi CIM Provider の詳細については、『Monitoring VMware based PRIMERGY servers with ServerView』マニュアルを参照してください。

2.1 初回起動

ServerView 基本設定ウィザードには、イベントマネージャを設定するステップがあります (基本設定ウィザードのユーザガイドを参照)。

2.2 イベントマネージャの起動

イベントマネージャは、ServerView Operations Manager 開始画面またはサーバリストから起動します。

1. ServerView Operations Manager を起動します。

   方法は、ServerView Operations Manager のマニュアルに記載されています。

2. ServerView Operations Manager 開始画面またはサーバリストで、メニュー項目「**イベントマネージャ**」をクリックします。

3. イベントマネージャの各コンポーネント（アラームモニタおよびアラーム設定）を起動するには、対応するリンク（「**アラームモニタ**」または「**アラーム設定**」）をクリックして起動できます。

i イベントマネージャを起動 / 操作するには、適切な権限が必要です。RBAC（役割ベースのアクセス制御）ベースの ServerView Suite のユーザ管理では、ユーザへの許可の割り当てをユーザロールを使用して制御するため、ユーザロールに必要な権限が付与されていることを確認してください。詳細は、『ServerView でのユーザ管理』ユーザガイドを参照してください。

2.3 アイコン

「**アラームモニタ**」画面と「**アラーム設定**」画面には、アイコンのリストが表示されます。これらのアイコンの意味は、次のとおりです。

	赤のアラーム : 危険（critical）
	橙色のアラーム : 重度（major）
	黄色のアラーム : 軽度（minor）
	青のアラーム : 情報（informational）
	灰色のアラーム : 不明 (unknown)
	アラームは無視されます。
	選択したサーバにスケジュールによってミュートモードが設定されています。サーバはスケジュール外で、アラームを受信していません。 アラームが発生した場合、割り当てられている重要度レベル「**危険**」、「**重度**」、「**軽度**」、「**情報**」が表示されます。
	このアラームがユーザ入力により確認されました。
	このアラームにより他のプログラムが実行されました。
	このアラームについてブロードキャストメッセージが送信されました。
	このアラームについてメールが送信されました。
	このアラームによりポケットベルコールが発信されました。
	このアラームが管理用サーバに転送されます。
	このアラームがローカルシステムのイベントログに転送されます。

表 2: アラームモニタおよびアラーム設定画面のアイコン

	緑 : ポケットベル確認済み
	黄色 : ポケットベル完了済み
	赤 : ポケットベルあり (現在実行中)
	黄色 : 転送完了済み
	赤 : 転送あり (現在実行中)
	表のカラムは別の基準でフィルタ処理できます。

表 2: アラームモニタおよびアラーム設定画面のアイコン

3　アラームモニタ

アラームモニタコンポーネントには、Operations Manager のメイン画面で選択されたサーバやサーバグループに関連する、すべての受信アラームが表示されます。

3.1　アラームの表示

アラームモニタを起動するには、イベントマネージャの起動画面 (15 ページ の「イベントマネージャの起動」の項をご覧ください) または Operations Manager の起動画面で、**「イベント管理」**の下にある**「アラームモニタ」**リンクをクリックします。Operations Manager の起動方法については、ServerView Operations Manager のマニュアルをご覧ください。

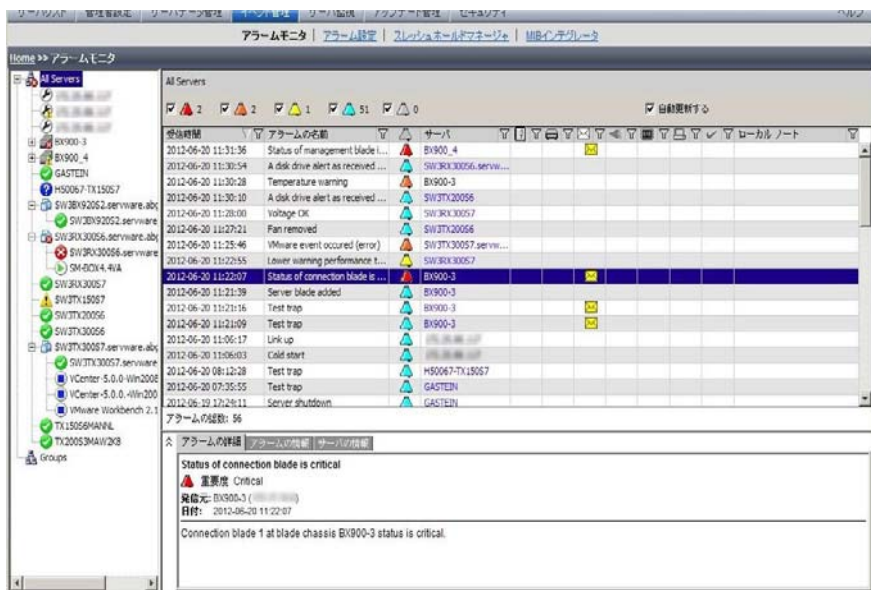



図 1: アラームモニタ

アラームモニタ画面は、4 つの領域に分かれています。

- タイトルバーの下にあるメニューバーを使用して、Operations Manager の各機能を選択できます。

  – サーバリスト
  – 管理者設定
  – サーバデータ管理
  – イベント管理
  – サーバ監視
  – アップデート管理
  – セキュリティ（OpenDS がディレクトリサービスとして使用されている場合のみ）

  メニューバーの下の行に、選択したメニューに応じて、対応するメニュー項目が表示されます。

  メニューバーのメニューについて、詳しくは、「ServerView Operations Manager ユーザーズガイド」をご覧ください。

  i イベント管理メニュー以外のメニューを使用できるのは、管理用サーバ上に Operations Manager がインストールされている場合のみです。

- 画面左側には、サーバとサーバグループを含むファイルツリー構造が表示されます。ここで、アラームまたはサーバリストに表示するサーバを選択します。

  i マウスポインタをファイルツリー内のサーバ上に移動させると、ツールチップが表示されます。ツールチップの内容は、サーバ名の長さによって異なります。サーバ名がファイルツリー内で切り詰められている場合は、ツールチップの最初に完全なサーバ名が表示され、その下にサーバタイプが表示されます。サーバ名が切り詰められていない場合は、ツールチップにはサーバタイプのみが表示されます。

- 画面右上には、ファイルツリーで選択したサーバのアラームエントリが表示されます。アラームリストは複数ページで構成されています。

  右側のヘッダ部分に表示されるアイコンは、アラームリストのページにある重要度レベル別のアラームエントリ数を示しています。

  これらのアイコンを使用して、アラームリストの表示内容を変更できます。アラームメッセージを表示したいアラームレベルを、クリックして選択します。

アラームモニタの表示更新の有効 / 無効は、「**自動更新する**」を使用して設定します。「**自動更新する**」を選択すると、アラームがロギングされた時点で表示が自動的に更新されます。選択しない場合は、ロギングされた「**アラームの総数**」の表示だけが更新されます。

アラームエントリは、ステータスバーの下に次の情報とともに表示されます。

受信時間
　　アラームを受信した時刻

アラームの名前
　　アラームの簡単な説明

アラームアイコン (以降の表をご覧ください)
　　アラームの重要度を示します。

サーバ
　　サーバ名。サーバ名をクリックすると、「**ServerView [サーバ名]**」画面が表示され、選択したサーバの詳細情報を確認できます。詳しくは、ServerView Operations Manager のマニュアルをご覧ください。

　　i 「**ServerView [サーバ名]**」画面が表示されるのは、管理用サーバに Operations Manager がインストールされている場合だけです。

メールアイコン（下記の表を参照）
　　アラーム転送のタイプを示しています。

受領
　　アラームが確認されたかどうかを示します。

ローカルノート
　　ユーザが入力したメモを表示します。

各アイコンの意味は、次のとおりです。

	アラームレベルを示します。
	このアラームがローカルイベントログに書き込まれました。
	このアラームによりポケットベルコールが発信されました。
	このアラームについてメールが送信されました。
	このアラームについてブロードキャストメッセージが送信されました。
	このアラームによりプログラムが実行されました。
	このアラームが管理用サーバに転送されました。

表 3: アラームモニタのアイコン

- 画面右下では、アラームリストで選択したアラームエントリの情報を確認できます。2 つまたは 3 つのタブが表示されます。
  - 「**アラームの詳細**」タブ - アラームリストで選択したアラームエントリの概要が表示されます。
  - 「**アラームの情報**」タブ - 選択したアラームエントリについて、MIB に保存された詳細情報が表示されます。
  - 「**サーバの情報**」タブ - 選択したアラームエントリの発信元サーバの情報が含まれています。「**一般情報**」には、サーバの全般的な情報 (システム名、IP アドレス、コミュニティ名など) が表示されます。「**その他**」には、サーバのプロパティに保管されている追加情報 (管理者、設置場所、モデルなど) が表示されます。

    このタブには、対応するサーバがサーバリストに含まれているかどうかにより、リンクが表示されます。

サーバがサーバリストに含まれている場合、「**設定変更**」リンクを使用して、このサーバの「**サーバのプロパティ**」画面を開き、サーバの設定値を変更できます。

サーバがサーバリストに含まれていない場合は、「**サーバリストに追加**」リンクを使用して、サーバブラウザを開き、サーバをリストに追加できます。サーバのプロパティとサーバブラウザについての詳細は、「ServerView Operations Manager ユーザーズガイド」をご覧ください。

i 「**サーバの情報**」タブは、Operations Manager も、イベントマネージャも管理用サーバにインストールされている場合にのみ使用できます。

3.2 サーバのアラームの表示

特定のサーバについて複数のアラームメッセージを受信している場合、サーバリストには最も重要度の高いメッセージが表示されます。画面下側には、この重要度で受信した最新のアラームメッセージの情報のみが表示されます。

特定のサーバに関するすべてのアラームメッセージの概要を知りたい場合は、そのサーバ専用のアラームモニタ機能に切り替えることができます。

ファイルツリーでサーバを選択し、Operations Manager メイン画面のメニューバーからアラームモニタ機能を起動します。

または、サーバリストのアラームアイコン (アラームベル) を使用すると、より迅速に起動できます。アラームアイコンをクリックすると、そのサーバ専用のアラームモニタ機能に切り替わります。この場合、Operations Manager メイン画面のリストには、特定のサーバのアラームメッセージのみが表示されます。アラームリストからアラームメッセージを選択すると、受信した各アラームメッセージの詳細情報を表示できます。

3.3 アラームエントリのフィルタリング

アラームエントリのフィルタリングは、アラームリストのヘッダーで該当するフィルタアイコンをクリックして行うことができます。

アラームリストのヘッダーにあるフィルタアイコン。

フィルタアイコンをクリックすると、いずれの場合も関連するダイアログ「**列のフィルタ <column_name>**」が表示されます。選択して「**OK**」で確定します。選択した内容によって、フィルタリングされたエントリのみが表示されます。標準（**標準のフィルタ**）では、選択肢はすべてチェックボックスで選択します。カスタムフィルタ「**カスタム**」では、直接選択内容を入力するか、プレースホルダとしてアスタリスクを使用することができます。適用されているフィルタは、青色のフィルタアイコンで表示されます。

3.4 アラームエントリの処理

アラームエントリでは、次の機能を実行できます。

– アラームの確認
– アラームの除外
– アラーム除外のリセット
– アラームの削除

3.4.1 アラームの確認

受信したアラームを確認済みとしてマークできます。

次の手順に従います。

▶ リストからアラームエントリを選択します。

▶ コンテキストメニューから「**アラームを受領する**」を選択します。

確認済みにすると、「**受領**」カラムに次のアイコンが表示されます。

3.4.2 アラームの除外

特定のサーバについて、個々のアラームを除外できます。障害が発生したサーバから管理用サーバに膨大なメッセージが転送されている場合は、この機能が役に立ちます。

次の手順に従います。

▶ リストからアラームエントリを選択します。

▶ コンテキストメニューから「**除外**」を選択します。

アラームの除外は確認する必要があります。アラームを除外すると、アラームリストからすべてのアラームエントリが削除され、対象サーバからの同じ種類のアラームは、それ以降、リストに追加されなくなります。

「**除外アラーム一覧**」でこの設定をリセットできます。26 ページ の「アラーム除外のリセット」の項をご覧ください。

サーバが起動するとき、RAID Manager または Ethernet カードなどが、スタートアップの通知（RFC1157LinkUP など）としてアラーム（SNMP トラップ）を発行する場合があります。この種のアラームを抑制するため、アラームの除外を設定できます。この機能は、サーバごとに指定する必要があります。複数のサーバを監視する場合、アラーム機能を使用してこの設定を各サーバに指定します。

3.4.3 アラーム除外のリセット

アラーム除外の設定をリセットすることができます。次の手順に従います。

▶ コンテキストメニューから「**除外アラーム一覧**」を選択します。

「**Reset suppressings**」ウィンドウが開き、以前設定したすべてのアラーム除外の一覧

が表示されます。除外設定をリセットするには、次の手順を実行します。

▶ リストからリセットしたい除外設定を選択します。

▶ 「**削除**」ボタンをクリックします。

▶ 画面を閉じるには、「**閉じる**」ボタンをクリックします。

リストからエントリが削除され、アラーム設定が再び有効になります。

3.4.4 アラームの削除

アラームエントリを削除するには、次の手順を実行します。

▶ リストからアラームエントリを選択します。

▶ コンテキストメニューから「**削除**」を選択します。

重要度が「**危険**」のアラームは、受領されるまで削除できません。

3.5 接続のテスト

トラップを送信して、特定のサーバへの接続をテストすることができます。次の手順に従います。

▶ コンテキストメニューから「**テストトラップ**」を選択します。

「**テストトラップ**」画面が表示されます。

▶ 「**サーバリスト**」からサーバを選択します。

　または

▶ サーバの IP アドレスを入力します。サーバ名を指定することもできます。

▶ 「**コミュニティ**」と「**タイムアウト**」フィールドで、デフォルト値を使用するか、または任意の値を入力します。

▶ 「**テストトラップ**」ボタンをクリックして、接続をテストします。

画面に接続状態が表示されます。画面を閉じるには、「閉じる」ボタンをクリックします。

i **Linux について**

ローカルホスト（127.0.0.1/localhost）に対して接続テストを実施すると、テストトラップがタイムアウトになります。システムは、ServerView Operations Manager の要求先であるローカルホストの IP アドレスからの応答を待ち合わせますが、トラップによって受信された実際の応答は、SNMP マスターエージェントで指定されているサーバの実際の IP アドレスから来るため、タイムアウトが発生します。

3.6 その他の設定

3.6.1 ローカルノートの編集

アラームエントリに表示されるメモを編集できます。

► 対応するアラームエントリをクリックします。

► コンテキストメニューから「**ローカルノートの編集**」を選択します。

「**ローカルノートの編集**」画面が表示されます。

► テキストを入力します。

► 「**OK**」ボタンをクリックして、入力を確定します。

3.7 SC2 MIB トラップとしてリレーされる iRMC S2/S3 SEL エントリ

次の表は、2009 年以降に製造された PRIMERGY システムに適用されます。

iRMC S2/S3 によりシステムイベントログ (SEL) にイベントが書き込まれると、SNMP トラップが発信されることがあります。次の表に、SEL の iRMC S2/S3 エントリと、発信されるトラップとの関連を示します。

SEL に作成されるすべての iRMC S2/S3 エントリで、SNMP トラップが発信されるわけではありません。また、複数のエントリにより同じトラップが発信されることがあります。

エラーコード	iRMC S2/S3 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
000011	System event log (SEL) warning threshold exceeded	The System Event Log for cabinet XY at server XY has exceeded XY percent of its capacity.	2101	sc2TrapMessageLogWarning
040000	’FAN XY’: Fan failed	Fan ’FAN XY’ failed in cabinet XY of server XY.	2014	sc2TrapFanFailed
040001	’FAN XY’: Fan is working	Fan ’FAN XY’ was added into cabinet XY of server XY.	2010	sc2TrapFanAdded
		Fan ’FAN XY’ in cabinet XY of server XY is working again.	2012	sc2TrapFanOk
040002	’FAN XY’: Fan prefailure	Fan ’FAN XY’ will fail in near future in cabinet XY of server XY.	2013	sc2TrapFanCritical

表 4: iRMC S2/S3 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

エラーコード	iRMC S2/S3 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
040003	’FAN XY’: Redundant fan failed	The redundant fan ’FAN XY’ failed in cabinet XY of server XY.System can become critical if another fan in this group fails.	2015	sc2Trap RedundantFan Failed
040004	’FAN XY’: Fan removed	Fan ’FAN XY’ was removed from cabinet XY of server XY.	2011	sc2TrapFan Removed
050001	’Temp XY’: Temperature OK	Temperature at sensor ’Temp XY’ in cabinet XY of server XY is within normal range.	2020	sc2TrapTemp Ok
050016	’Temp XY’: Temperature warning	Temperature at sensor ’Temp XY’ in cabinet XY of server XY has reached the warning level.	2021	sc2TrapTemp Warning
050017	’Temp XY’: Temperature critical	Temperature at sensor ’Temp XY’ in cabinet XY of server XY has reached the critical level.	2022	sc2TrapTemp Critical
070000	’PSU XY’: Power supply removed	Power supply ’PSU XY’ in cabinet XY at server XY was removed.	2031	sc2TrapPower Supply Removed

表 4: iRMC S2/S3 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

エラーコード	iRMC S2/S3 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
070001	’PSU XY’: Power supply OK	Power supply ’PSU XY’ in cabinet XY at server XY was added.	2030	sc2TrapPowerSupplyAdded
		Power supply ’PSU XY’ in cabinet XY at server XY is working again.	2032	sc2TrapPowerSupplyOk
070002	’PSU XY’: Power supply failed	Power supply ’PSU XY’ in cabinet XY at server failed.	2034	sc2TrapPowerSupplyFailed
		Redundant power supply ’PSU XY’ in cabinet XY at server XY failed.System can become critical if another power supply fails.	2035	sc2Trap Redundant PowerSupply Failed
070003	’PSU XY’: Redundant power supply AC failed	AC failure in cabinet XY of server XY.	2040	sc2TrapAcFail
070005	Power unit: power supply redundancy lost	Power supply redundancy in cabinet XY at server XY lost.System will become critical if a power supply fails.	2036	sc2TrapPower Supply Redundancy Lost
070009	’PSU XY’: Redundant power supply DC failed	DC power failure in cabinet XY of server XY.	2041	sc2TrapDcFail
070010	’PSU XY’: Power supply fan failure	Fan failure at power supply ’PSU XY’ in cabinet XY of server XY.	2039	sc2TrapPowerSupplyFan Failure

表 4: iRMC S2/S3 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

エラーコード	iRMC S2/S3 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
07000A	'PSU XY': Power supply critical temperature	Temperature at power supply 'PSU XY' in cabinet XY of server XY has reached the critical level.	2037	sc2TrapPowerSupplyCriticalTemperature
07000F	'PSU XY': Power supply fan prefailure	Fan failure is predicted at power supply 'PSU XY' in cabinet XY of server XY.	2038	sc2TrapPowerSupplyFanFailurePrediction
0C0004	'CPU XY': CPU internal error (IERR)	Internal error (IERR) occurred on CPU 'CPU XY' in cabinet XY of server XY.	2082	sc2TrapCpuIerr
0C0021	'CPU XY': Uncorrected CPU Machine Check Architecture (MCA) error			
0C0007	'CPU XY': CPU clock automatically throttled	CPU speed at server XY changed to XY percent of its maximum speed.	2080	sc2TrapCpuSpeedChanged
0C0017	'CPU XY': CPU failure predicted	CPU failure is predicted for CPU 'CPU XY' in cabinet XY.	2081	sc2TrapCpuPrefail
0C000B	'CPU XY': CPU disabled	CPU 'CPU XY' in cabinet XY of server XY is disabled.	2083	sc2TrapCpuDisabled

表 4: iRMC S2/S3 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

エラーコード	iRMC S2/S3 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
120030	PCI system error (SERR): Slot 0x%1	The system wa restarted after a severe problem at cabinet XY of server XY. 詳細情報は、サーバ管理メッセージログ（復旧ログ）をご覧ください。	2006	sc2TrapSevere SystemError
120031	PCI parity error (PERR): Slot 0%1			
120034	PCI bus parity error indicated by onboard device (PERR): Bus: %1 Device: 0x%2 Function: 0x%3			
120035	PCI bus system error indicated by onboard device (SERR): Bus: %1 Device: 0x%2 Function: 0x%3			
120042	CPU front side bus (FSB) error			
120047	Fatal NMI			
150000	’Voltage XY’: Voltage OK	Power supply voltage ’BATT XY’ in cabinet XY at server XY is within normal range again.	2050	sc2Trap VoltageOk
150030	Battery voltage ’BATT XY’ OK			
150012	’Voltage XY’: Voltage low critical: % Volt	Power supply voltage ’Voltage XY’ in cabinet XY at server XY is too low.	2051	sc2Trap VoltageTooLo w
150032	Battery voltage ’BATT XY’ low critical: % Volt			
150017	’Voltage XY’: Voltage high critical: % Volt	Power supply voltage ’Voltage XY’ in cabinet XY at server XY it too high.	2052	sc2Trap VoltageToo High

表 4: iRMC S2/S3 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

エラーコード	iRMC S2/S3 SEL エントリ	トラップテキスト	アラーム ID	トラップ名
150031	Battery voltage 'BATT XY' low warning: % Volt	Battery voltage 'BATT XY' in cabinet XY at server XY: Battery is predicted to fail in near future.	2054	sc2TrapBattery VoltagePrefail
190003	'DIMM XY' Memory: Uncorrectable error (ECC)	Uncorrectable memory error at module 'DIMM XY' in cabinet XY of server XY.	2065	sc2Trap Uncorrectable MemError Module
190040	'DIMM XY': Uncorrectable Parity memory error			
190007	Memory: Uncorrectable error (ECC)	Uncorrectable memory error in cabinet XY of server XY.	2067	sc2Trap Uncorrectable MemError
190008	Correctable memory error disabled	Too many correctable memory errors in cabinet XY at server XY.Error logging was disabled.If logging was disabled and not automatically enabled again, you have to reboot your server to enable memory error logging again.If logging is disabled, prefailure detection is also not active!	2071	sc2TrapMem ErrorLogging Disabled

表 4: iRMC S2/S3 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

エラーコード	**iRMC S2/S3 SEL エントリ**	トラップテキスト	アラーム **ID**	トラップ名
190017	’DIMM XY’: Memory replaced by spare memory	Memory module ’DIMM XY’ in cabinet XY of server XY had failed and was replaced by a hot-spare module.	2070	sc2TrapMem ErrorModule Replaced
19001A	’DIMM XY’: Memory module failed predicted	Memory module failure is predicted for module ’DIMM XY’ in cabinet XY of server XY.	2068	sc2TrapMem ErrorModule Prefail
19001F	Memory: redundancy lost	Memory configuration in cabinet XY of server XY has lost redundancy.	2074	sc2TrapMem Error Redundancy Lost
190035	’DIMM XY’: Memory module error	Memory module ’DIMM XY’ in cabinet XY of server XY is failing.Too many errors have occurred.	2069	sc2Trap MemError ModuleFailing
190036	’DIMM XY’: Memory module failed (disabled)			
340002	Housing opened	The front door or housing of cabinet XY was opened on server XY.	2110	sc2Trap Intrusion Assertion
340003	Housing closed	The front door of housing of cabinet XY was closed on server XY.	2111	sc2Trap Intrusion Deassertion

表 4: iRMC S2/S3 SEL エントリ - SC2 MIB トラップ

4 アラーム設定

イベントマネージャの「**アラーム設定**」では、アラーム処理の設定を定義します。アラームルール、フィルタルール、全般的な設定を定義できます。アラームルールでは、サーバから通知されるイベントに対して、どのアクションを実行するかを定義します。（39 ページ の「アラームルール」の項をご覧ください。）フィルタルールでは、除外するアラームのタイプを定義します。（54 ページ の「フィルタルール」の項をご覧ください。）全般的な設定では、フィルタ処理されていないすべての着信アラームの処理について定義します。（59 ページ の「共通設定」の項をご覧ください。）コンポーネントの起動方法については、15 ページ の「イベントマネージャの起動」の項をご覧ください。

「**アラーム設定**」を選択すると、次の画面が表示されます。

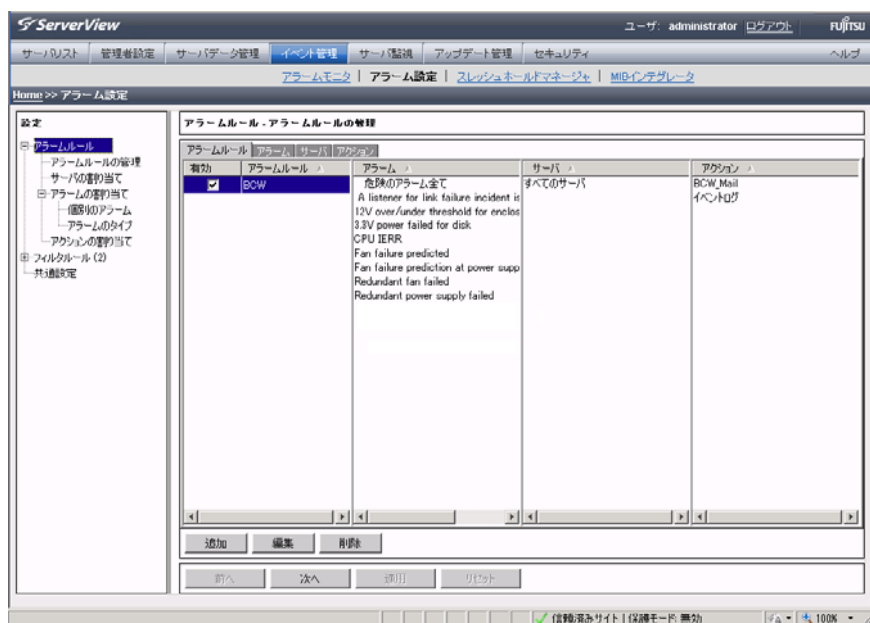



図 2: アラーム設定

画面左側のメニューツリーにより、アラーム処理の各ダイアログを表示します。

ウィンドウを初めて開くと、右側のセクションに **「アラームルール」→「アラームルールの管理」**ダイアログウィンドウが表示されます。「**前へ**」ボタンと「**次へ**」ボタンにより、アラームルールの設定画面を 1 つずつ切り替えることができます。また、メニューツリーの項目をクリックすると、該当する画面を直接表示できます。

ボタン

各画面には、次のボタンがあります。

追加
　　新しい設定を定義します。

編集
　　既存の設定を編集します。

削除
　　既存の設定を削除します。

前へ
　　前の画面に戻ります。

適用
　　変更をデータベースに保存します。設定変更後、「**適用**」ボタンをクリックせずに別の画面に移動しようとすると、警告メッセージが表示されます。

リセット
　　変更した内容が取り消され、前回「**適用**」ボタンでデータベースに保存した設定に戻されます。

次へ
　　次の画面に移動します。

OK
　　新しい設定を保存して画面を閉じます。

キャンセル
　　変更を保存しないで画面を閉じます。

ヘルプ
　　ヘルプを表示します。

4.1 アラームルール

アラームルールにより、各種サーバから通知される特定のアラームに対して各アクションを実行します。アラームルールを定義するには、次の 4 つの手順を実行します。

– アラームルールの名前を定義します。(40 ページ の「アラームルールの管理」の項をご覧ください。)

– アラームルールに 1 つまたは複数のサーバを割り当てます。(43 ページ の「サーバの割り当て」の項をご覧ください。) アラームルールは、割り当てたサーバからのアラームに対してのみ適用されます。

– アラームルールに 1 つまたは複数のアラームを割り当てます。(46 ページ の「アラームの割り当て」の項をご覧ください。)

– 着信アラームに対するアクションを定義します。(50 ページ の「アクションの割り当て」の項をご覧ください。) 通知先の指定を行ったり、各アクションに基づいた設定を行います。(プログラム実行、メール転送など)。

新しいアラームルールを定義する場合は、アラームルールを設定する各画面が、順番に表示されます。既存のアラームルールを変更する場合も、メニューツリーから各ダイアログ画面を直接表示することができます。

4.1.1 アラームルールの管理

「アラームルール」→「アラームルールの管理」画面には、設定されているすべてのアラームルールの内容が表示されます。**「アラームルール」、「アラーム」、「サーバ」、「アクション」**のタブがあり、選択したタブに応じて、設定済みのアラームルールがそれぞれ異なる画面で表示されます。

「**追加**」ボタンで新しいアラームルールを追加できます。開いたウィンドウで、新しいアラームルールの名前を入力できます。また、既存のアラームルールの設定を、新しいアラームルールにコピーすることもできます。この場合、ドロップダウンリストで既存のアラームを選択します。「**既存のルールからコピーを設定**」のドロップダウンリストで指定した、既存のアラームルールのすべての設定 (デフォルトでは、**「アラーム」、「サーバ」、「アクション」**) が引き継がれます。各項目の設定を引き継がない場合は、チェックボックスをクリックして各項目を無効にします。割り当てられた設定は、新しいアラームルールには引き継がれません。
どの設定も引き継がない場合は、ドロップダウンリストで空のフィールドを選択します。

既存のアラームルールを変更するには、「**編集**」ボタンを使用します。選択したアラームルールを削除するには、「**削除**」ボタンを使用します。

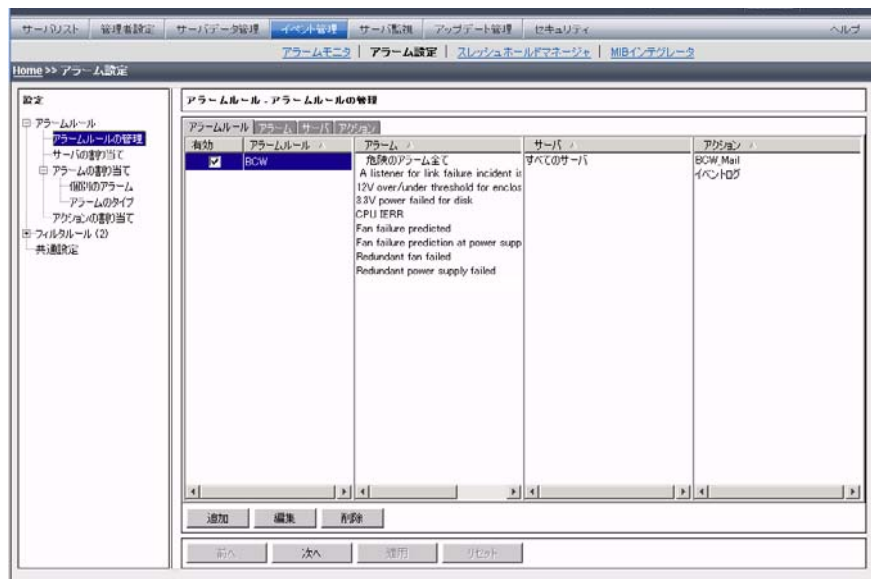



図 3: アラームルール - アラームルールの管理

「**アラームルール**」タブ

「**アラームルール**」タブは、アラームルールを、アラーム、サーバ、アクションに割り当てるときに使用します。

一番左の欄には、設定済みのアラームルールが一覧表示されます。「**有効**」の欄は、アラームルールが有効（チェックマークあり）か無効かを示します。「**有効**」の欄をクリックすると、チェックマークをオンまたはオフにできます。新しい設定を保存するには、「**適用**」ボタンをクリックします。

左から 2 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているアラームが一覧表示されます。アクションが実行されるのは、アラームルールに割り当てられているアラームのみです。

左から 3 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているサーバが表示されます。アラームルールによってアクションが実行されるのは、割り当てられているサーバからのアラームのみです。

一番右の欄には、選択したアラームルールでの着信アラームによって実行されるアクションが表示されます。

新しいアラームルールを定義するには、「**追加**」ボタンを使用します。新しいアラームルール名を入力する画面が開きます。既存のアラームルールを選択して変更するには、「**編集**」ボタンを使用します。既存のアラームルールを削除するには、「**削除**」ボタンを使用します。

「**アラーム**」タブ

「**アラーム**」タブには、どのアラームが、どのアラームルールに割り当てられているかが表示されます。これにより、アラームに割り当てられているアクション（割り当てられている場合）をすばやく確認できます。

一番左の欄には、設定可能なアラームがアルファベット順に一覧表示されます。アラームは複数の異なるベンダによって定義されているので、同じ名前が重複して表示されることがあります。

左から 2 番目の欄には、選択したアラームが割り当てられている、すべてのアラームルールが一覧表示されます。

左から 3 番目の欄には、2 番目の欄で選択したアラームルールに割り当てられているサーバが表示されます。アラームルールによってアクションが実行されるのは、割り当てられているサーバからのアラームのみです。

一番右の欄には、選択したアラームルールでの着信アラームによって実行されるアクションが表示されます。

「**サーバ**」タブ

「**サーバ**」タブには、どのサーバに、どのアラームルールが割り当てられているかが表示されます。これにより、サーバからのアラームに対して、どのアクションが実行されるかを確認できます。

一番左の欄には、サーバリストに登録されているサーバが、フィルタ処理されずに、アルファベット順で一覧表示されます。(54 ページ の「サーバのフィルタ」の項をご覧ください。) リスト内のエントリをクリックすると、特定のサーバの詳細が表示されます。

左から 2 番目の欄には、選択したサーバが割り当てられている、すべてのアラームルールが一覧表示されます。

左から 3 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているアラームが表示されます。

左から 4 番目の欄には、選択したアラームルールで着信アラームによって実行されるすべてのアクションが表示されます。

「**アクション**」タブ

「**アクション**」タブには、着信アラームが、どのアラームルールによって、どのアクションが実行されるかが表示されます。

一番左の欄には、設定済みのアクションが一覧表示されます。

左から 2 番目の欄には、選択したアクションに着信アラームを転送する、すべてのアラームルールが一覧表示されます。

左から 3 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているサーバが一覧表示されます。

左から 4 番目の欄には、選択したアラームルールに割り当てられているすべてのアラームが表示されます。

「**アクション**」タブで、新しいアクションを定義するには「**追加**」ボタン、既存のアクションを変更するには「**編集**」ボタン、既存のアクションを削除するには「**削除**」ボタンを使用します。デフォルトで表示されている「**イベントログ**」と「**ポップアップ**」のアクションは削除できません。「**イベントログ**」のアクションは変更もできません。

4.1.2　サーバの割り当て

「アラームルール」→「サーバの割り当て」画面では、アラームルールに割り当てるサーバ、またはサーバグループを定義します。

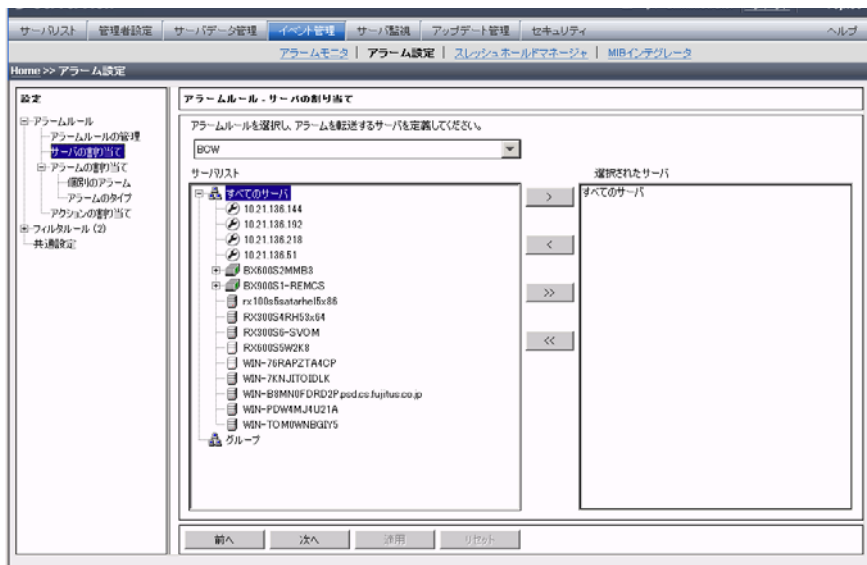



図 4: アラームルール - サーバの割り当て

ドロップダウンリストから、編集したいアラームルールを選択します。「**サーバリスト**」のファイルツリーには、サーバリストに登録されているサーバがフィルタ処理されずに表示されます。「**選択されたサーバ**」画面には、選択したアラームルールに割り当てられているサーバとサーバグループが一覧表示されます。

i　サーバグループを「**選択されたサーバ**」に移動しても、関連付けられているサブグループは同時には移動しません。サブグループは個別に移動する必要があります。この制限は、「**すべてのサーバ**」は該当しません。

> **i** 異なるサーバグループに同じ名前が付いている場合、「**アラーム設定**」では、グループ階層によってサーバグループが表示されます。

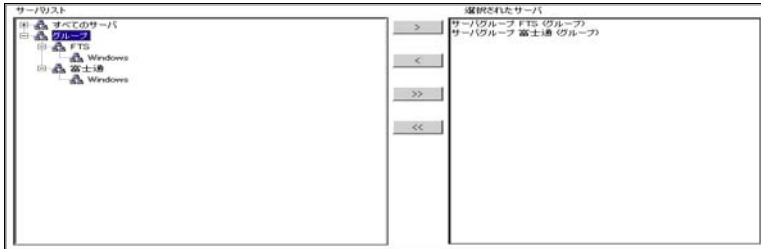



図 5: アラームルール - サーバの割り当てのサーバグループ階層

次のボタンを使用して、アラームルールに割り当てるサーバを指定できます。

>

選択したサーバをアラームルールに追加します。

<

選択したサーバをアラームルールから削除します。

>>

リスト内にあるすべてのサーバをアラームルールに追加します。

<<

リスト内にあるすべてのサーバをアラームルールから削除します。

コンテキストメニューから「**サーバの情報を表示する**」を選択すると、選択したサーバの詳細情報が表示されます。「**割り当てられていないサーバのみ表示**」を選択すると、サーバリストに、アラームルールに割り当てられていないサーバだけが表示されます。「**全てのサーバを表示**」を選択すると、すべてのサーバが再表示されます。

新しい設定を保存するには、「**適用**」ボタンをクリックします。「**リセット**」ボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

変更した設定を適用せずにウィンドウを閉じようとしたり、アラームルールに必要な要素が欠落していると、その旨の警告メッセージが表示されます。

4.1.2.1 サーバ情報の表示

コンテキストメニューから「**サーバの情報を表示する**」を選択すると、「**サーバの情報**」ウィンドウが開き、選択したサーバの詳細情報が表示されます。

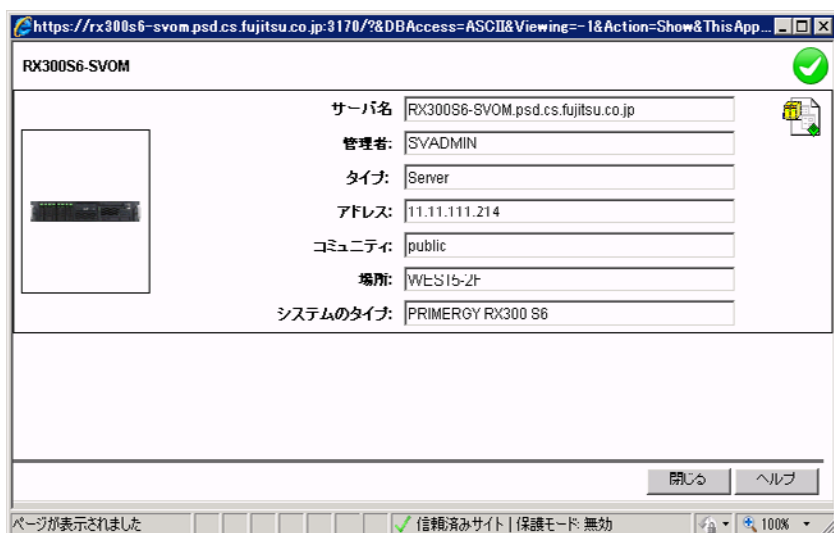



図 6: サーバ情報

ヘッダに、サーバ名と現在のサーバの状態を示すステータスアイコンが表示されます。

ステータスアイコンの下に、サーバがサーバリストに含まれているかどうかを示す別のアイコンが表示されます。

既知のサーバです。このサーバは、ServerView サーバリストに存在します。

未知のサーバです。このサーバは、ServerView サーバリストに存在しません。

サーバがサーバリストに存在すれば、サーバ情報が表示されます。サーバがサーバリストに存在しなくても、現在の状態が「**管理可能**」であれば、イベントマネージャによりサーバから直接情報が取得されます。

i この画面から、選択したサーバに対して Operations Manager を起動できます。右上にあるステータスアイコンをクリックします。

ステータス表示、サーバの画像、Operations Manager 起動コマンドが有効になるのは、Operations Manager がインストールされている場合のみです。

「**サーバ情報**」画面を閉じるには、「**閉じる**」ボタンをクリックします。

4.1.3　アラームの割り当て

「**アラームルール**」-「アラームの割り当て」の順に選択し、「**個別のアラーム**」で、アラームルールに対してアラームを定義し、割り当てられているアラームの詳細をすべて表示できます。「**アラームのタイプ**」で、選択したアラームルールに対してどんな種類のアラームを転送するかを定義できます。

図 7: アラームルール - アラームの割り当て

「**個別のアラーム**」の上部ドロップダウンリストには、既知のアラームルールの名前が表示されます。ここから、編集したいアラームルールを選択します。

不明なアラームが発生した場合、このアラームにアラームルールを割り当てられます。不明なアラームが抑制されず、明示的に許可されるようにしてください。これは、「**フィルタルール**」–「**アラームのフィルタ**」ダイアログボックスのフィルタ設定で実行できます（57 ページ の「アラームのフィルタ処理」を参照）。また、「**アラームルール**」–「**アラームの割り当て**」–「**アラームのタイプ**」で該当するチェックボックスをオンにする必要もあります。

「**割り当て済**」は、このアラームルールに現在割り当てられているアラームの数と、すべての既知のアラームの数を示します。

「**チェックされた数**」は、アラームがフィルタ処理されているかどうかに関係なく、チェックボックスがオンになっているすべてのアラームの数を示します。

「**選択された数**」は、アラームリスト内で現在選択されているアラームの数を示します。

画面下側のアラームリストでは、チェックボックスにより、アラームルールに割り当てられているアラームがわかります。アラームの名前（「**アラームの名前**」）、アラームの重要度（「**重要度**」）、アラームが定義されているアラームの MIB ファイル（「**MIB**」）、アラームのトラップ名（「**トラップタイプ**」）も表示されます。

選択したアラームルールに割り当てられているアラームは、チェックボックスにチェックマークが表示されます。チェックボックスを選択または選択解除するには、チェックボックスをクリックします。
変更したアラームルール設定を保存するには、「**適用**」ボタンをクリックします。「**割り当て済**」カウンタの値が「**チェックされた数**」カウンタと一致するようになります。

アラームリスト内のアラームはすべて、異なる基準でソートまたはフィルタ処理することができます。これにより、特定のアラームのみを表示できます。

アラームをソートするには、アラームリストのヘッダにある関連カラムをクリックします。「**アラームの名前**」、「**重要度**」、「**MIB**」、または「**トラップタイプ**」の各基準で、アラームをアルファベット順にソートできます。

アラームをフィルタにかけるには、アラームリストのヘッダにある対応するフィルタアイコン をクリックします。
選択したアラーム（チェックボックスを選択）、**「アラームの名前」、「重要度」**、または「**MIB**」に応じて、アラームをフィルタ処理できます。フィルタアイコンをクリックすると、対応するダイアログが表示されます。例えば、「**重要度**」を選択すると、エラーの重要度を指定するダイアログが表示され、重要度を選択できます。選択後、「**OK**」ボタンをクリックして確定します。
選択した内容により、画面にフィルタ処理されたアラームだけが表示されます。適用されているフィルタは、青色のフィルタアイコンで表示されます。

標準（**標準のフィルタ**）では、選択肢はすべてチェックボックスで選択します。カスタム（**カスタマイズされたフィルタ**）では、直接入力により（例 :MINOR）、またはワイルドカードとしてアスタリスクを使用して選択します。例えば、重要度の場合、M* と指定すると、Major および Minor が選択されます。

アラームリストには右クリックメニューがあり、次の項目を選択できます。

選択したアラームの情報を表示する
　　選択したアラームの追加情報を表示します。

リスト上のすべてのアラームにチェックを入れる
　　現在のすべての既知のアラームをアラームルールに追加します。

選択したアラームにチェックを入れる
　　選択したアラームをアラームルールに追加します。

リスト上のすべてのアラームのチェックをはずす
　　現在のすべての既知のアラームを、アラームルールから削除します。

選択したアラームのチェックをはずす
　　選択したアラームをアラームルールから削除します。

新しい設定を保存するには、「**適用**」ボタンをクリックします。「**リセット**」ボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

「アラームルール」→「アラームの割り当て」の順に選択し、「アラームのタイプ」で、選択したアラームに対してどのような種類のアラームを転送するかを定義できます。

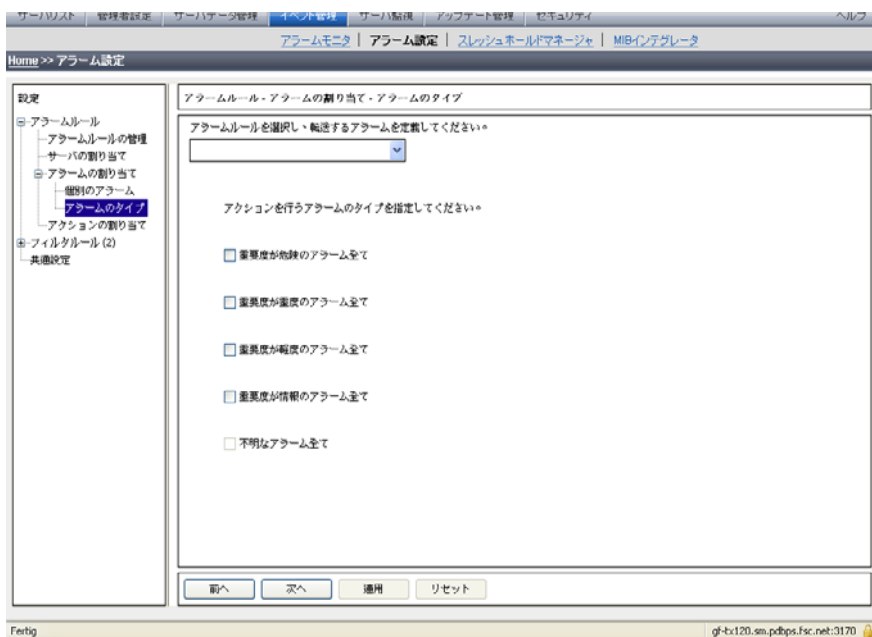



図 8: 「アラームルール」-「アラームの割り当て」-「アラームのタイプ」

上部ドロップダウンリストには、既知のアラームルールの名前がすべて表示されます。ここから、編集したいアラームルールを選択します。次のフィルタ設定をアクティブまたは非アクティブにできます。

重要度が危険のアラーム全て

重要度が「**危険**」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

重要度が重度のアラーム全て

重要度が「**重度**」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

重要度が軽度のアラーム全て

重要度が「**軽度**」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

重要度が情報のアラーム全て

重要度が「**情報**」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

不明なアラームの全て
重要度が「不明」のすべてのアラームが、アラームルールに従って処理されます。

4.1.4 アクションの割り当て

「アラームルール」→「アクションの割り当て」画面では、アラームのアクションに関する設定を行います。アラームルールを選択し、特定のアラームメッセージへの応答として、このアラームルールのサーバに対して実行する処理を定義します。

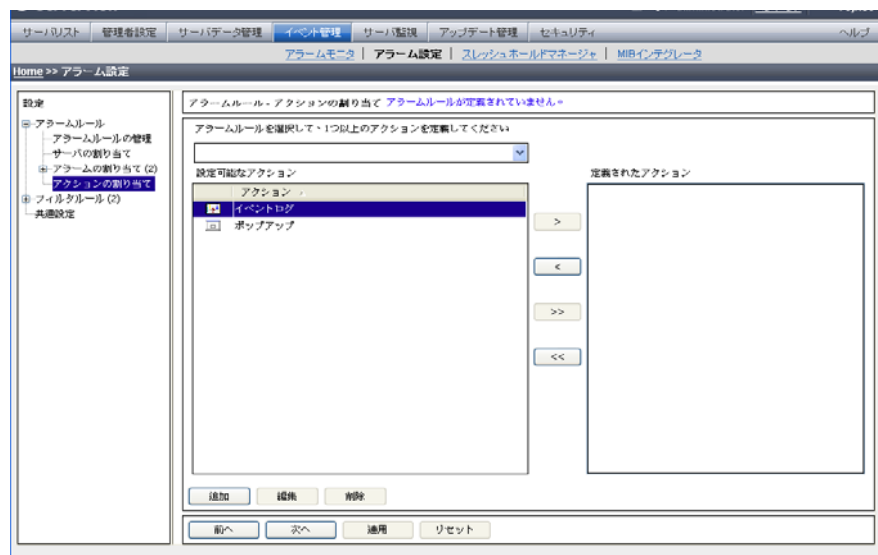



図 9: アラームルール - アクションの割り当て

上部ドロップダウンリストには、既知のアラームルールの名前がすべて表示されます。ここから、編集したいアラームルールを選択します。**「設定可能なアクション」**ボックスには、すべての既知のアクションが表示されます。**「定義されたアクション」**ボックスには、アラームルールに割り当てられているアクションが一覧表示されます。

新しいアクションを定義するには、「**追加**」ボタンを使用します。既存のアクションを変更するには、「**編集**」ボタンを使用します。既存のアクションを削除するには、「**削除**」ボタンを使用します。
Automatic Service Mail のアクションは削除できません。また、「**定義されたアクション**」には移動できません。

アラームの転送を有効 / 無効にするには、次のボタンを使用します。

>

選択したアクションを有効にします。

<

選択したアクションを無効にします。

>>

すべての既知のアクションを有効にします。

<<

すべての既知のアクションを無効にします。

新しい設定を保存するには、「**適用**」ボタンをクリックします。「**リセット**」ボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

アラームルールには、次の応答を定義できます。

- アラームをメールで送信します（**メール**）
- アラームをポップアップで表示します（**ポップアップ**）
- アラームをイベントログに書き込みます（**イベントログ**）
- アラームをポケットベルに送信します （**ポケットベル**）
  （この機能は日本ではサポートしていません。）
- プログラムを実行します（**プログラム実行**）
- 複数の端末にブロードキャスト送信します（**ブロードキャスト**）
- 別の管理用サーバに転送するトラップを生成します（**アラーム転送**）
- 特殊なサービスアドレスに電子メールを送信します（**Automatic Service Mail**）
  （この機能は日本ではサポートしていません。日本では、FJJ Service Mail という転送サービスを提供します。）

新しいアクションを定義するには、「追加」ボタンをクリックします。次の画面が表示され、使用可能なアクションが表示されます。

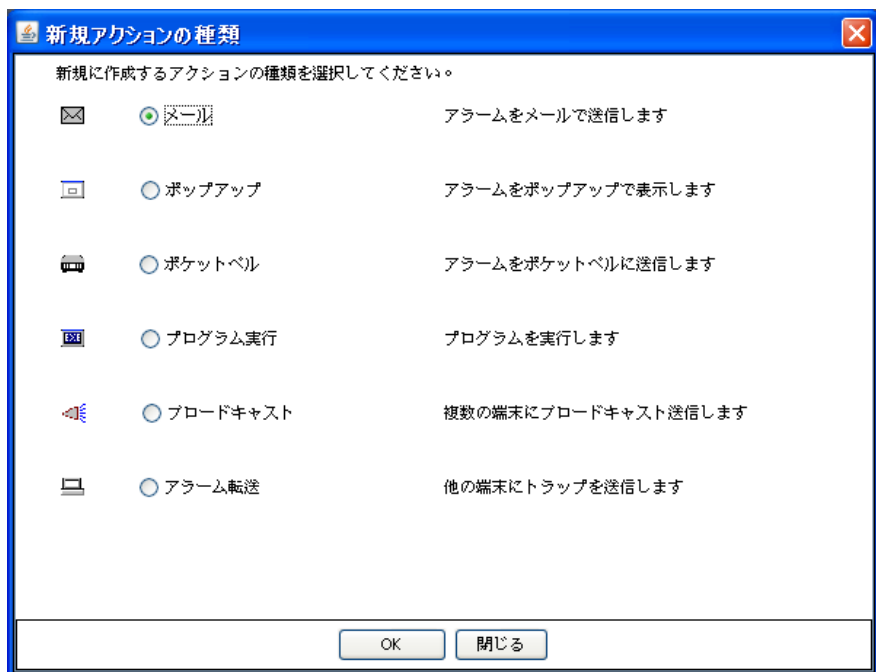



図 10: 新規アクションの追加

「**OK**」ボタンをクリックすると、選択した内容に応じて、さらに詳細な設定を行う別の画面が表示されます。この画面の各種タブを使用して、転送に必要なすべてのパラメータを定義できます。対応するヘルプボタンをクリックすると、各画面の詳細説明が表示されます。各画面の詳細情報は、それぞれの転送処理と設定の項 (60 ページ) をご覧ください。

i

- SMTP AUTH について

  メールの送信には、**SMTP AUTH** がサポートされています。サポートされる認証方式 : CRAM MD5/LOGIN/PLAIN メール送信時に使用される認証方式は送信先の SMTP サーバが対応している認証方式に応じて自動的に切り替わり、最も安全なものが選択されます。

  「**ユーザ**」および「**パスワード**」の入力を省略した場合は、認証なしの SMTP で送信されます。

- 「**メール**」を選択した場合、「**件名**」と「**メッセージ**」の文字セット (**charset**) を以下の方法で設定します。

  – Windows ベースの管理用サーバでは、「**charset=Shift-JIS**」
  – Linux ベースの管理用サーバでは、「**charset=UTF-8**」

4.2 フィルタルール

フィルタルールでは、アラームを除外するサーバまたはサーバグループを定義し（54 ページ の「サーバのフィルタ」の項をご覧ください）、除外対象のアラームを指定します（57 ページ の「アラームのフィルタ処理」の項をご覧ください）

> **i** フィルタルールはアラームルールに優先します。アラームがフィルタルールが原因で無視されると、そのアラームに割り当てられているアラームルールはアクティブ化されません。

4.2.1 サーバのフィルタ

「フィルタルール」→「サーバのフィルタ」画面では、アラームを除外したいサーバまたはサーバグループを定義します。

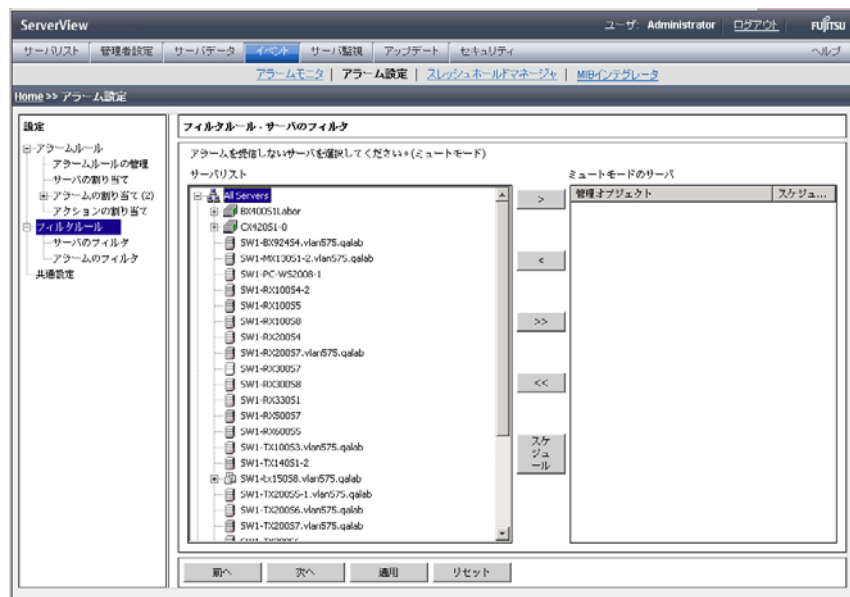



図 11: 「サーバのフィルタ」画面

サーバ上でイベントマネージャが実行され、サーバリストに他のサーバが存在しない場合には、このサーバが自動的にローカルホストとして表示されます。この場合、今後の設定は不要です。

「**サーバリスト**」枠には、サーバリスト内のすべてのサーバとサーバグループが表示されます。「**ミュートモードのサーバ**」枠には、アラームを受信しないサーバまたはサーバグループが表示されます。
サーバのフィルタを設定するには、次のボタンを使用します。

>

　「サーバリスト」枠内から選択したサーバまたはサーバグループからのアラームを無視します。

<

　選択したサーバまたはサーバグループからのアラームが転送されます。

>>

　サーバリスト内のすべてのサーバまたはサーバグループからのすべてのアラームを無視します。

<<

　「**ミュートモードのサーバ**」枠内のサーバまたはサーバグループからのアラームを受信します。サーバリスト内のすべてのサーバまたはサーバグループからのアラームが受信されます。

除外されたサーバまたはサーバグループが指定した時間のみアラームを受信せず、残りの時間は受信するように、「**ミュートモードのサーバ**」枠内で「**スケジュール**」ボタンを使用してスケジュールを設定できます。

- 「**ミュートモードのサーバ**」枠内で、スケジュールを設定するサーバまたはサーバグループを選択します。
- 「**スケジュール**」ボタンをクリックします。
- 「**サーバのフィルタ**」**-**「**スケジュール設定**」ダイアログボックスが表示されます。

図 12: 「サーバのフィルタ」- 「スケジュール設定」ダイアログボックス

– ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。

「**常に実行**」と「**実行しない**」以外の定義済みのスケジュール設定を個別に変更し、「**保存**」ボタンを使用して変更を別のスケジュール名で保存することができます。アラームを受信しない時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。

「**スケジュール設定**」ダイアログボックスで「**適用**」ボタンをクリックすると新しい設定が保存されます。「**閉じる**」ボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

定義したスケジュール設定を削除するには、「**スケジュール設定**」ダイアログボックスのドロップダウンメニューで定義済みのスケジュール設定「**常に実行**」を選択します。これにより、定義したスケジュール設定が削除され、「**サーバのフィルタ**」画面で「**ミュートモードのサーバ**」枠内の「**スケジュール**」の欄がクリアされます。

「**サーバのフィルタ**」画面の「**サーバリスト**」ウィンドウでサーバを選択すると、コンテキストメニューの「**サーバの情報を表示する** 」を選択してこのサーバの詳細情報を表示することができます。

「**サーバのフィルタ**」画面で「**適用**」ボタンをクリックすると新しい設定が保存されます。「**リセット**」ボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

4.2.2 アラームのフィルタ処理

「フィルタルール」→「アラームのフィルタ」画面では、アラームのタイプによってフィルタ設定を有効または無効にできます。

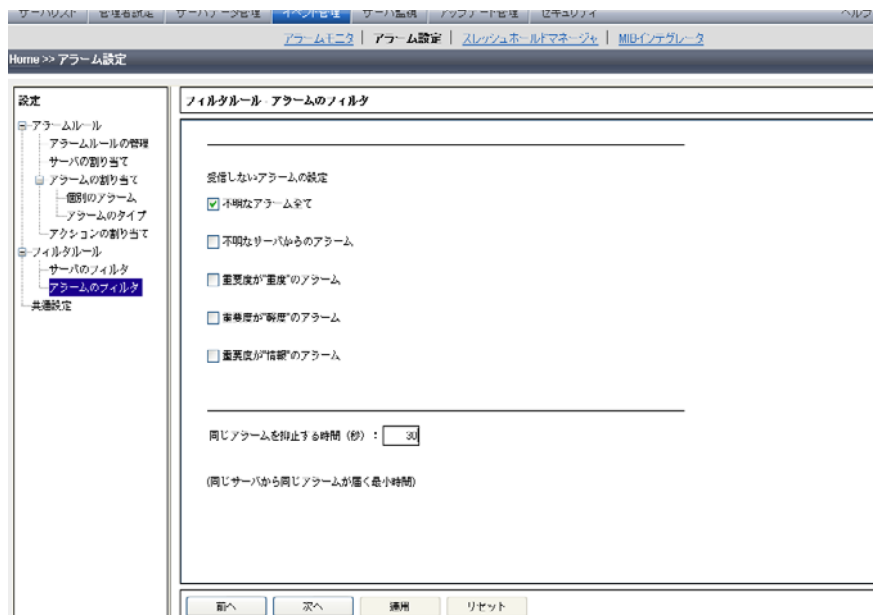



図 13: アラームタイプのフィルタ設定

次のフィルタ設定をアクティブまたは非アクティブにできます。

不明なアラーム全て
: 不明なアラームを受信しません。不明なアラームとは、統合されたどの MIB にも定義されていないアラームです。

不明なサーバからのアラーム
: 不明なサーバからのアラームを受信しません。

重要度が " 重度 " のアラーム
: 重要度レベルが重度（**major**）のアラームを受信しません。

重要度が " 軽度 " のアラーム
: 重要度レベルが軽度（**minor**）のアラームを受信しません。

重要度が " 情報 " のアラーム
: 重要度レベルが情報（**informational**）のアラームを受信しません。

「**同じアラームを抑止する時間（秒）**」入力フィールドで、同じサーバから同じアラームが続けて複数回発信された場合の受信を許可するまでの間隔を指定できます。これにより、正常に起動されていないサーバから管理用サーバに、同じアラームが大量に転送されるのを防ぐことができます。

例えば「同じアラームを抑止する時間（秒）」に 30 秒を設定した場合、重要度ごとのフィルタ間隔は次のようになります。

アラームの重要度	**重要度の値**	**フィルタ間隔を求める式**	**フィルタ間隔**
危険	1	30 秒 × 1	30 秒
重度	2	30 秒 × 2	60 秒
軽度	3	30 秒 × 3	90 秒
情報	4	30 秒 × 4	120 秒

表 5: 重要度ごとのフィルタ間隔

4.3 共通設定

「**共通設定**」画面で、アラーム処理の全般的な設定を定義できます。

アラームを受信するごとに、アラームグループに関係なく、デフォルトで実行される処理を定義できます。

次の処理を定義できます。

– 認証エラー（Authentication failure）アラームの受信を抑止します。

– サーバブレードからのアラームについて、アラームを発信したサーバブレードのホスト名から、該当サーバブレードを搭載しているブレードシャーシの名前に変換して表示します。

エラーの重要度に応じて、以下のアクションを任意に組み合わせて指定できます。どのような組み合わせも可能です。

– OS のイベントログに書き込む

  チェック済みの重要度のアラームを受信すると、アラームは OS のイベントログに記録されます。

– チェック済みの重要度のアラームを受信すると、管理用サーバに各アラームに対するポップアップ通知が表示されます。

– アラームモニタを画面の最上位に表示する

  チェック済みの重要度のアラームを受信するたびに、開いているウィンドウの最前面にアラームモニタが表示されます。このためには、アラームモニタをすでに開いておく必要があります。

アラームを削除するタイミングを指定できます。アラームが受信から一定時間が経過した時点、またはエントリ数が一定数に達した時点で削除できます。エントリ数が一定数に達すると、リスト内の最も古いアラームが削除されます。

新しい設定を保存するには、「**適用**」ボタンをクリックします。「**リセット**」ボタンをクリックすると、最後に保存した設定に戻ります。

i 共通設定では、イベントログはアラームルールとは別個に書き込まれます。設定によっては、同じアラームに対して 2 つのイベントログ書き込みが行われる場合もあります。

4.4 全般的なメール転送

メール設定

転送方法として「**メール**」を選択すると、次の「**新規メールの設定**」画面が表示されます。

図 14: 新規メールの設定

この画面の「**メール設定**」、「**メールプロパティ**」、「**スケジュール設定**」タブを使用して、転送に必要なすべてのパラメータを定義できます。* が付いているフィールドは必須入力、その他のフィールドは任意入力です。

i 最後のメール転送の結果は、ServerView Operations Manager によってログファイルに保存されます。

Windows の場合、ログファイル blat.txt は次のディレクトリにあります。

<install_path>\ServerView Services\scripts\ServerView\SnmpTrap

Linux の場合、ログファイル smtpm.log は次のディレクトリにあります。

/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/cgi-bin/ServerView/SnmpTrap

「**メール設定**」タブ

「**メール設定**」タブには、メール設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの値が表示されます。

「**メール設定**」画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

名称	**意味**
説明	メール設定の名前 既存のメール転送のメール設定を変更する 場合は、50 ページ の「アクションの割り当て」の項の「**編集**」ボタンをご覧ください。このフィールドには既存の名前が表示され、変更はできません。
件名	メールの件名。 メールの件名にはマクロを使用できます。(81 ページ の「マクロ」の項をご覧ください。) 件名に表示できない文字が含まれている場合は、表示可能な文字に置換されます（16 進コードなど）
宛先	アラームを送信したい担当者の電子メールアドレス。複数のアドレスを指定する場合は、セミコロンまたはカンマで区切る必要があります。
同報	アラームのコピーを送信したい担当者の電子メールアドレス（任意)。複数のアドレスを指定する場合は、セミコロンまたはカンマで区切る必要があります。複数アドレスの設定は、Windows 環境のイベントマネージャでのみ可能です。
スケジュール	アラーム転送のタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。「**スケジュール設定**」タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。
追加メッセージ	アラームメッセージを定義するテキストフィールド 各種マクロを使用して、サーバの関連情報を挿入できます。(81 ページ の「マクロ」の項をご覧ください。) 容易に指定できるように、推奨する内容が表示されます。必要に応じて、削除または変更してください。

表 6: メール設定画面の入力フィールド

「メールプロパティ」タブ

「**メールプロパティ**」タブには、メールサーバ用のフィールドがあります。メールサーバは SMTP サーバです。

> **i** ServerView V6.20 以降ではアラーム転送が搭載されたため、MAPI はサポートされなくなりました。SMTP のみが使用されます。アップグレード中にメールサービスが MAPI でアドレス指定された場合、警告が発行されます。セットアップ時に、すべての MAPI の宛先が SMTP に変更されます。SMTP サーバの設定を「**アラーム構成**」コンポーネントで設定する必要があります。

「**Mail Properties**」ウィンドウの入力フィールドには、以下の意味があります。

名称	意味
差出人	送信者（SMTP）
サーバ	SMTP サーバ（SMTP）
ユーザ （任意）	ユーザ名（SMTP）
パスワード （任意）	メールシステムの認証情報 （SMTP では任意）
確認入力 パスワード （任意）	パスワードの確認入力 （SMTP では任意）
ポート	ポート番号（SMTP） ポート番号のデフォルト値は、「**25**」です。

表 7: メールプロパティ画面の入力フィールド

「**スケジュール設定**」タブ

「**スケジュール設定**」タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。

「**テスト送信**」ボタンをクリックすると、設定を確認するためのテストメールが送信されます。
「**OK**」ボタンをクリックすると、設定が保存され、前の画面に戻ります。
その他のボタンは、転送タイプと選択したタブに応じて表示されます。
（38 ページ の「ボタン」をご覧ください。）

McAfee ウィルススキャナ

McAfee ウィルススキャナには、登録されていない電子メールの送信を抑制する設定が含まれます。

メール送信者を登録するには、対応するプログラム名を入力する必要があります。Windows の場合は「**blat.exe**」、Linux の場合は「**smtpm**」と入力します。

4.5 サービスプロバイダへのメールと転送の実行

イベントマネージャでは、電子メールによってサービスプロバイダにアラームを自動的に転送できます。

サービスプロバイダへのメール転送を有効にすると、特定のトラップが発生するごとに、電子メールによりサーバの状態がサービスプロバイダに通知されます。メールを転送するトラップのグループは、サービスプロバイダが定義し、サービスプロバイダによってのみ変更できます。

i 最後のメール転送の結果は、ServerView Operations Manager によってログファイルに保存されます。

Windows の場合、ログファイル blat.txt は次のディレクトリにあります。

<install_path>\ServerView Services\scripts\ServerView\SnmpTrap

Linux の場合、ログファイル smtpm.log は次のディレクトリにあります。

/opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/cgi-bin/ServerView/SnmpTrap

メール転送の有効化

サービスプロバイダへのメール転送を有効にするには、「**アラームルール**」→「**アクションの割り当てアクションの割り当て**」画面の「**Automatic ServiceMail**」を選択し、表示された画面で設定します。
「**編集**」ボタンをクリックすると、「**Edit Automatic Service Mail Configuration**」ウィンドウが開きます。
このウィンドウで、「**メール設定**」タブを使用してサービスプロバイダへのメール転送に必要な設定を行えます。

「**メール設定**」画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

名称	意味
宛先	Service Center の電子メールアドレス
同報	サービスメールのコピーの送信先となる電子メールアドレス（任意）
Identnumber	サーバ固有の ID 番号 i サービスプロバイダの番号と一致している必要があります。

表 8: Service Mail Settings 画面の入力フィールド

名称	意味
名称	サーバ管理者の名前
Phone	サーバ管理者の電話番号
E-mail Address（任意）	Service Center がフィードバック用に使用する電子メールアドレス（任意）
Country ID（任意）	2 文字の ISO 国別コード（任意） （例 : ドイツの場合は DE）
Customer ID（任意）	カスタマコード（任意） プロバイダのカスタマコードと一致している必要があります。

表 8: Service Mail Settings 画面の入力フィールド

この設定を有効 / 無効にするには、「**Enabled**」オプションを使用します。

「**メールプロパティ**」タブには、メールサーバ用のフィールドがあります。メールサーバは SMTP サーバです。

ServerView V6.20 以降ではアラーム転送が搭載されたため、MAPI はサポートされなくなりました。SMTP のみが使用されます。アップグレード中にメールサービスが MAPI でアドレス指定された場合、警告が発行されます。セットアップ時に、すべての MAPI の宛先が SMTP に変更されます。SMTP サーバの設定を「**アラーム構成**」コンポーネントで設定する必要があります。

「**Mail Properties**」ウィンドウの入力フィールドには、以下の意味があります。

名称	意味
差出人	送信者（SMTP）
サーバ	SMTP サーバ（SMTP）
ユーザ（任意）	ユーザ名（SMTP）
パスワード（任意）	メールシステムの認証情報（SMTP では任意）
確認入力パスワード（任意）	パスワードの確認入力（SMTP では任意）
ポート	ポート番号（SMTP） ポート番号のデフォルト値は、「**25**」です。

表 9: メールプロパティ画面の入力フィールド

「**プログラム実行設定**」タブには実行プログラム設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの設定値が表示されます。

プログラム実行設定画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

名称	**意味**
説明 （任意）	実行プログラム設定の名前 既存の実行プログラム転送の実行プログラム設定を変更する場合は（50 ページ の「アクションの割り当て」の項の「**編集**」ボタンをご覧ください）、このフィールドに既存の名前が表示され、変更はできません。
コマンド	実行するコマンドの名前 この名前には、コマンド行として引数を付けて入力できます。各種マクロを使用して、これらの引数にサーバの関連情報を挿入できます。（81 ページ の「マクロ」の項をご覧ください。）
作業フォルダ (任意)	実行する「**コマンド**」が存在するディレクトリの名前
スケジュール (任意)	アラームでこのコマンドをトリガーするかどうかを示します。 ドロップダウンリストから、スケジュールを有効または無効にできます。スケジュールを有効にすると、アラームによってこのコマンドは常にトリガーされます。

表 10: プログラム実行設定画面の入力フィールド

「**Service Mail Settings**」画面の「**Test Address**」ボタンをクリックすると、サービスプロバイダにテストメールが送信されます。Service Center は、受信したすべてのテストメールに対して、自動的に応答電子メールを送信します。この場合、「**E-mail**」入力フィールドに指定したアドレスが使用されます。

同じメールの送信インターバルは、最低 600 秒以上に設定されます。これは、重複メッセージの送信を防ぐためです。

アラームモニタでは、サービスメールによって転送されたトラップは、次のように識別されます。

このアイコンは、サービスメール機能によって転送されたトラップを示します。

このアイコンは、通常のメール機能とサービスメール機能の両方によって転送されたトラップを示します。

4.6 ポップアップの設定

転送に「**ポップアップ**」を選択した場合は、「**新規ポップアップの設定**」ウィンドウが開きます。このウィンドウで、「**ポップアップ設定**」および「**スケジュール設定**」タブを使用して、ポップアップ転送に必要なすべての設定を使用できます。

ポップアップ通知はローカルホストにのみ表示されます。その他のホストには表示できません。

「**ポップアップ設定**」タブ

「**ポップアップ設定**」タブには、ポップアップ設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの値が表示されます。

ポップアップ設定画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

名称	意味
説明	ポップアップ設定の名前 既存のポップアップ転送のポップアップ設定を変更する場合は（50 ページ の「アクションの割り当て」の項の「**編集**」ボタンをご覧ください）、このフィールドに既存の名前が表示され、変更はできません。
スケジュール	アラームを受け取ってからポップアップメッセージを表示するまでのタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。「**スケジュール設定**」タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。
追加メッセージ (任意)	ポップアップ画面のメッセージを定義するテキストフィールド 各種マクロを使用して、サーバの関連情報を挿入できます。（81 ページ の「マクロ」の項をご覧ください。） Windows Server 2008 では、255 文字を超える出力は切り捨てられます。

表 11: ポップアップ設定画面の入力フィールド

「**スケジュール設定**」タブ

「**スケジュール設定**」タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。

Linux の注意事項

1. 転送されたアラームメッセージを受信するには、ユーザが Linux システムコンソールにログオンしている必要があります。どのユーザもログオンしていない場合、転送されたアラームメッセージは保存されません。つまり、ユーザが次回システムコンソールにログオンしても、これらのメッセージは出力されません。

2. Linux システムでは、ユーザは仮想システムコンソールにログオンするため、グラフィカルインタフェース（Gnome や KDE などの GUI セッション）とコマンドラインインタフェース（CLI セッション）のどちらも使用できます。どちらを使用するかによって、レイアウトの表示が異なります。

   CLI セッションでは、ログオンユーザは転送されたアラームメッセージを、プレーンテキストメッセージとして受信します。

   GUI セッションでは、転送されたアラームメッセージが（非モーダルの）ポップアップ画面に出力されます。

3. 転送サービスは、/var/run/utmp にあるデータベースを使用して、システムコンソールに接続しているユーザの情報を取得します。したがって、このデータベースに正しいエントリが含まれている必要があります。
   システムコンソールで「**startx**」プログラムでグラフィックセッションを開始した場合、/var/run/utmp に必要なエントリが作成されません。この場合、転送されたアラームは出力されません。
   転送されたアラームメッセージを、ServerView 管理用サーバ上でポップアップメッセージとして受信するには、Linux オペレーティングシステムの起動後、システムをグラフィックモード （runlevel 5）で開始する必要があります。
   転送サービスでは、Xconsole にはアラームは転送されません。

4.7 ポケットベルの設定（COM ポートとモデム）

転送方法として「**ポケットベル**」を選択すると、「**新規ポケットベルの設定**」画面が表示されます。この画面の「**ポケットベル設定**」タブと「**モデム設定**」タブを使用して、シリアルインタフェースと接続モデム (ポケットベルの種類) に関する各種の設定を行うことができます。

次の値を定義できます。

– 使用可能なインタフェース名（COM2 または COM4 など）
– 最大伝送速度（ボーレート）
– データフロー制御の種類
– モデムの初期化チェーンとリセットチェーン

「**新規ポケットベルの設定**」画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

名称	**意味**
説明	ポケットベル設定の名前
オーナー	所有者の名前
COM ポート	シリアルインタフェースの名前 ドロップダウンリストに使用可能なインタフェース名が含まれています。特定のインタフェース名または「**Any Available**」エントリを選択できます。後者を選択すると、COM ポートに使用可能な任意のインタフェースに接続できます。接続デバイスが頻繁に変更される場合は、このエントリを使用すると便利です。

表 12: メール設定画面の入力フィールド

名称	意味
ポケットベル番号	ポケットベルの (電話) 番号 i 宛先番号のテキストメッセージには、関連するポケットベルサービスの追加プレフィクスが必要になることがあります。 例 : ドイツの D1 サービス : 49171XXXXXXX (XXXXXXX = ポケットベル ID) 49171 (00 を付けない) のプレフィクスが必要 ドイツの D2 サービス : 0049172XXXXXXX 0049172 は任意
スケジュール	アラーム転送のタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。「**スケジュール設定**」タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。
リトライ間隔	2 回のポケットベル呼び出し間の遅延 (分単位) サービスプロバイダによってはポケットベルの呼び出しに数分かかることがあるので、この遅延はあまり短く設定しないでください。また、サーバ管理用サーバに到達するまでの所要時間を考慮してください。この遅延は、5 分以上にするのが適当です。
リトライ	メッセージが表示されるまで、ポケットベルにアラームを転送する最大試行回数
ポケットベルタイプ	ポケットベルタイプ（signal/numeric/alpha/SMS1 Service/SMS2 Service/NTT Service） i ポケットベルの種類を誤って選択すると、通信プロトコルが無効になり、転送は無視されます。

表 12: メール設定画面の入力フィールド

ポケットベルサービスを指定するには、「**ポケットベル**」、「**SMS-1**」、「**SMS-2**」タブを使用します。

「**サーバ数**」タブには、サーバ名に割り当てられているサーバ番号が表示されます。サーバ番号は、「**numeric**」のポケットベルタイプに送信されます。

設定をテストするには、「**テスト**」ボタンをクリックします。

各サービス番号について、データビット、パリティ、ストップビットを設定し、ポケットベルサービスがメッセージに使用するプロンプトを定義します。SMS1 と SMS 2 サービスでは、GSM モバイルに対して、プロトコルの異なる 2 つのサービスを設定できます。SMS1 は TAP プロトコル、SMS2 は UDP プロトコルを使用します。

ボーレート	2400 bps、1200 bps、または 300 bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
ダイヤルプレフィクス	ATDP0,01691

表 13: Deutsche Telekom の「Cityruf」ポケットベルサービスの設定例

シリアルインタフェース用の設定を定義した場合は、アラームによるポケットベルまたは携帯電話への呼び出しのアクションを定義できます。(50 ページ の「アクションの割り当て」の項もご覧ください。)

4.8 実行プログラムの設定

転送方法として「プログラム実行」を選択すると、「**新規プログラム実行の設定**」画面が表示されます。この画面の「**プログラム実行設定**」タブと「**スケジュール設定**」タブで、実行プログラム転送に必要なすべての設定を行うことができます。

「**プログラム実行設定**」タブ

「**プログラム実行設定**」タブには実行プログラム設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの設定値が表示されます。

「**プログラム実行設定**」画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

名称	**意味**
説明	実行プログラム設定の名前 既存の実行プログラム転送の実行プログラム設定を変更する場合は（50 ページ の「アクションの割り当て」の項の「**編集**」ボタンをご覧ください）、このフィールドに既存の名前が表示され、変更はできません。
コマンド	実行するコマンドの名前 この名前には、コマンド行として引数を付けて入力できます。各種マクロを使用して、これらの引数にサーバの関連情報を挿入できます。（81 ページ の「マクロ」の項をご覧ください。）
作業フォルダ (任意)	実行する「**コマンド**」が存在するディレクトリの名前
スケジュール	アラームによりこのコマンドを呼び出すタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。「**スケジュール設定**」タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。

表 14: プログラム実行設定画面の入力フィールド

「スケジュール設定」タブ

「**スケジュール設定**」タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。

> **i** Windows Server 2008 の場合、CUI コマンドは、プログラムの実行のために使用できる唯一のコマンドです。

4.9 ブロードキャストの設定

「**ブロードキャスト**」は、ポップアップウィンドウまたはメッセージが複数のサーバまたはサーバグループに同時に表示される転送方法です。転送方法として「ブロードキャスト」を選択すると、「**新規ブロードキャストの設定**」ウィンドウが開きます。この画面の「**ブロードキャスト設定**」タブと「**スケジュール設定**」タブで、ブロードキャスト転送に必要なすべての設定を行うことができます。

「**ブロードキャスト設定**」タブ

「**ブロードキャスト設定**」タブには、ブロードキャスト設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの設定値が表示されます。

「**ブロードキャスト設定**」画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

名称	**意味**
説明	ブロードキャスト設定の名前 既存のブロードキャスト転送の設定を変更する場合は（50 ページ の「アクションの割り当て」の項の「**編集**」ボタンをご覧ください）、このフィールドに既存の設定がある場合、変更することはできません。
スケジュール	アラーム転送のタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。「**スケジュール設定**」タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。

表 15: ブロードキャスト設定画面の入力フィールド

名称	意味
モード 特定ユーザに送信 ドメイン内の全てのユーザに送信 接続中の全てのユーザに送信	ブロードキャストの転送モード ここに名前を入力した特定のユーザだけに通知します。 転送先の同じドメインに属するすべてのユーザに通知します。(Windows でのみ有効、デフォルト) Windows 2008 では、ドメインはサポートされなくなりました。 任意のセッションで、転送に関連するすべてのユーザに通知します (Linux でのデフォルト)。
追加メッセージ (任意)	ブロードキャスト画面のメッセージを定義するテキストフィールド 各種マクロを使用して、サーバの関連情報を挿入できます。(81 ページ の「マクロ」の項をご覧ください。) Windows Server 2008 では、255 文字を超える出力は切り捨てられます。

表 15: ブロードキャスト設定画面の入力フィールド

「スケジュール設定」タブ

「**スケジュール設定**」タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。

Linux の注意事項

転送サービスは、/var/run/utmp (utmp(5)) にあるデータベースを使用して、接続しているユーザとセッションのタイプ（GUI または CLI）の情報を取得します。したがって、すべてのセッション（ローカルまたはリモート）が utmp データベースに正しく登録されている必要があります。

SuSE Linux と RedHat Linux の場合、KDE セッションによって起動したコンソールやエミュレーションでは utmp エントリが作成されません。したがって、これらの画面には転送されたアラームメッセージは出力されません。

この制約は、SuSE Linux と RedHat Linux の GNOME セッションや、Caldera OpenLinux の KDE セッションには適用されません。

Windows の注意事項

Windows Messenger Service に障害があると、ブロードキャスト転送に失敗することがあります。障害がないかどうかは、net send コマンドで確認できます。

4.10 トラップの設定

転送方法として「**アラーム転送**」を選択すると、「**新規アラーム転送の設定**」画面が表示されます。この画面の「**アラーム転送設定**」タブと「**スケジュール設定**」タブで、トラップ転送に必要なすべての設定を行うことができます。

「**アラーム転送設定**」タブ

「**アラーム転送設定**」タブには、トラップ設定用のフィールドがあります。一部のフィールドには、定義済みの設定値が表示されます。

「**アラーム転送設定**」画面の入力フィールドの意味は、次のとおりです。

名称	**意味**
アクション名	トラップの転送先となるステーションの名前 既存のトラップ転送の設定を変更する場合は（50 ページ の「アクションの割り当て」の項の「**編集**」ボタンをご覧ください）、このフィールドに既存の設定がある場合、変更することはできません。
コミュニティ	トラップの転送先のコミュニティの名前。 デフォルト値は、「**public**」です。
スケジュール	アラーム転送のタイミングを示すタイムモデル ドロップダウンリストから定義済みのタイムモデルを選択します。「**スケジュール設定**」タブを使用して、独自のタイムモデルを設定することもできます。
IP Address	インターネットプロトコルアドレス

表 16: アラーム転送設定画面の入力フィールド

名称	**意味**
転送モード	転送モード
通常	このモードは、アラームを評価して、管理用サーバに転送します。
パススルー	このモードは、このオプションおよび「透過」オプションで使用できます。 このオプションでは、アラームが直接、管理用サーバに送信されます。アラームは、サーバから直接送信されたように処理されます。このモードでは、トラップが転送されるのは 1 回だけです。
透過	「**透過**」オプションでは、受信したトラップがそのまま管理用サーバに転送されます。トラップがエージェントから送信されたのか、イベントマネージャによって転送されたのかは判別することはできません。

表 16: アラーム転送設定画面の入力フィールド

「**スケジュール設定**」タブ

「**スケジュール設定**」タブでは、タイムモデルの選択、追加、変更ができます。アラームの転送時刻を、週全体にわたって 1 時間単位で定義できます。

4.11 マクロ

以下に、アラームの転送（メール、ポケットベルなど）に使用できるマクロの一覧を示します。

これらのマクロは、アラームを報告したサーバの対応情報に置換されます。

名称	意味
$_SRV	サーバの名前
$_TRP	アラームメッセージのテキスト
$_TYP	アラームの簡単な説明
$_IPA	サーバの IP アドレス
$_CTY	コミュニティ
$_SEV	アラームの重要度 (critical、major、minor、informational、unknown)
$_TIM	タイムモデル (形式 : yyyy-mm-dd-hh.mm.ss) アラーム転送に適用される、管理用サーバのローカルタイムスケジュール
$_IDN	サーバの ID 番号
$_OMS	管理用サーバの名前
$_MIB	受信したアラームの MIB ファイル名
$_SPC	受信したアラーム固有の番号
$_MDL	アラームを報告するハードウェアの Fujitsu REMCS ID

表 17: マクロ

4.12 アラーム設定の例

この項では、アラーム設定の代表例を説明します。

目的

重要度が危険のイベントが 「**ALARMTEST**」サーバで発生した場合、メールを管理者「**admin@test.co.jp**」に送信します。

要件

– ServerView エージェントがサーバで実行され、サーバは同じネットワーク上の ServerView Operations Manager に管理ターゲットとして登録されている

– ServerView エージェントから ServerView Operations Manager へのテストトラップが正常に機能している

– ServerView Operations Manager が SMTP サーバ（111.222.3.20）の動作中にアクセスできる

設定手順

► 以下のいずれかの操作を行います。

  – ServerView Operations Manager 起動画面から操作している場合 :

  「**アラーム設定**」をクリックします。

  – 個々の機能画面から操作している場合 :

  ウィンドウ上部のメニューバーで「**イベント管理**」→「**アラーム設定**」をクリックします。

「**アラームルールの管理**」ウィンドウが開きます。

► 「**追加**」をクリックします。

「**新規アラームルールの名前**」ダイアログボックスが開きます。

► 「**新規アラームルールの名前**」ダイアログボックスにたとえば「**CriticalMail**」と入力して、「**OK**」をクリックします。

► 「**適用**」をクリックして、「**次へ**」をクリックします。「**サーバの割り当て**」ウィンドウが開きます。

► サーバリストで「**ALARMTEST**」サーバを選択して、「>」ボタンをクリックします。

- 「**適用**」をクリックして、「**次へ**」をクリックします。「**アラームの割り当て - 個別のアラーム**」ウィンドウが開きます。
- 「**次へ**」を再度クリックします。

  「**アラームの割り当て - アラームのタイプ**」ウィンドウが開きます。
- 「**重要度が危険のアラーム全て**」にチェックを入れます。
- 「**適用**」をクリックして、「**次へ**」をクリックします。

  「**アクションの割り当て**」ウィンドウが開きます。
- 「**追加**」をクリックします。

  「**新規アクションの種類**」ダイアログボックスが開きます。
- 「**メール**」を選択して「**OK**」をクリックします。

  「**新規メールの設定**」ウィンドウが開きます。
- 「**メール設定**」タブと「メールプロパティ」タブの各フィールドに必要な項目を入力します。

説明

この例では、アクション名として 「**MailSet**」

件名

この例では、「**Critical Error occurred**」

宛先

この例では、管理者として 「**admin@test.co.jp**」

スケジュール

この例では、「**常に実行**」

差出人

この例では、「**ALARMTEST**」

サーバ

この例では、「**111.222.3.20**」

「**ALARMTEST**」サーバから管理者「**admin@test.co.jp**」へのメールの設定を指定します。

► 「**適用**」をクリックして、「**テスト送信**」をクリックします。

► テストメールが正常に送信されたら、「**OK**」をクリックします。「**アクションの割り当て**」ウィンドウに戻ります。

► 作成した 「**MailSet**」を選択して、「>」ボタンをクリックします。

► 「**適用**」をクリックします。

5 トラップ

ネットワークコンポーネントにイベントが発生すると、SNMP エージェントから管理者に、イベントを通知するメッセージが送信されます。このメッセージを SNMP トラップと呼びます。送信されたトラップに基づき、ネットワーク上のイベントに対処してください。トラップのメッセージは、トラップ ID と MIB OID によって特定できます。

> i CIM Provider をインストールした環境では、CIM Indication としてイベントが通知されます。CIM Indication で通知されるイベントは SC2.MIB 相当です。ただし、SC2.MIB 内に定義されたすべてのトラップが送信されるわけではありません。通知されるイベントは CIM Provider がインストールされた環境によって異なります。

5.1 トラップ情報の表示

イベントマネージャがサポートするデフォルトの MIB とトラップについての詳細は、イベントマネージャのヘルプをご覧ください。

トラップ情報の概要画面は、イベントマネージャのスタート画面または「**アラームモニタ**」画面から表示します。

– イベントマネージャのスタート画面からトラップ情報を表示する場合

  ► イベントマネージャを起動します。

  ► 「**ヘルプ**」の「**目次**」を選択します。

  ► 「**イベント管理**」の下の「**アラームモニタ**」を選択します。

  ► 表示された画面で、「**イベントマネージャ**」リンクをクリックします。

  ► 「**アラーム**」タブで、「**エージェント - アラーム情報**」オプションを選択します。

– 「**アラームモニタ**」画面からトラップ情報を表示する場合

  ► イベントマネージャを起動します。

  ► 「**イベント管理**」の下の「**アラームモニタ**」を選択します。

  ► 「**アラームモニタ**」画面で、「メニューバー」から「**ヘルプ**」→「**アラームモニタのヘルプ**」の順に選択します。

  ► 表示された画面で、「**イベントマネージャ**」リンクをクリックします。

► 「**アラーム**」タブで、「**エージェント - アラーム情報**」オプションを選択します。

トラップ情報は、ServerView Operations Manager のスタート画面からも同様に表示できます。

「**アラーム MIB**」画面が表示されます。

に設定できます。下記の一覧はアラームサービスの既知のMIBを表示しています。アラームで定義される情報に付いて更なる情報を得るには、MIBをクリックして下さい。

aac.mib	ADICLIBMIB-v2.mib
aplsc.mib	Asmpro.mib
baspTrap.mib	CentricStor-FS.mib
clariion1.mib	clariion_fsc_2.mib
CMC-TC.mib	Cmc32.mib
CPQHOST-MIB.mib	Ddm.mib
dec.mib	desktrap.mib
dhtraps.mib	domagt.mib
dptscsi.mib	Duralink.mib
DW.mib	DX60_80.MIB
egeneraV1.mib	ENTITY-RFC2737V1.mib
eurologic.mib	F5emt2o.mib
FCMGMT-MIB.mib	fcswitch.mib
FibreCAT_TX_S2.mib	FJDARY-E4kM500.MIB
FSC-AC-MIBV1.mib	FSC-KVMS3-TRAP.mib
FSC-RCA4PLUS-TRAP.mib	FSC-S21611-TRAP.mib
GSWB-PRIVATE-MIB.mib	HA.mib
Hd.mib	HPI-MIBV1.mib
IF-MIBV1.mib	INTELLAN_V1.mib
iommib.mib	Ldcm.mib
Ldsm.mib	LINK-INCIDENT.mib
log3v1.mib	Lsi1030.mib
LSIRAID-IDE.mib	MatrixLibraryMIB.mib

図 15: イベントマネージャの MIB 概要の例

MIB を 1 つ選択すると、次のような画面が表示され、詳細なトラップ情報を確認できます。

sc2TrapTest	2000	Test trap from server %s (no error).
sc2TrapCommunicationFailure	2001	Communication with the Server Management controller in cabinet %d of server %s lost.
sc2TrapCommunicationEstablished	2002	Communication with the Server Management controller in cabinet %d of server %s established again.
sc2TrapControllerSelftestWarning	2003	The Server Management controller in cabinet %d has detected an minor problem during selftest of server %s.
sc2TrapControllerSelftestError	2004	The Server Management controller in cabinet %d of server %s failed.
sc2TrapBiosSelftestError	2005	A critical error happend while BIOS selftest in cabinet %d of server %s. See server management message log (recovery log) for detailed information.
sc2TrapSevereSystemError	2006	The system was restarted after a severe problem at cabinet %d of server %s. See server management message log (recovery log) for detailed information.
sc2TrapFanAdded	2010	Fan '%s' was added into cabinet %d of server %s.
sc2TrapFanRemoved	2011	Fan '%s' was removed from cabinet %d of server %s.
sc2TrapFanOk	2012	Fan '%s' in cabinet %d of server %s is working again.
sc2TrapFanCritical	2013	Fan '%s' will fail in near future in cabinet %d of server %s

図 16: MIB からのトラップに関する詳細情報の例

「**印刷**」ボタンをクリックすると、この内容を印刷できます。

5.2 Windows のイベントログにトラップを表示する

Windows エージェントのインストール時に、Fujitsu MIB（HD.MIB、Mylex.MIB など）から送信されるトラップを Windows のイベントログに書き込むかどうかを指定できます。イベントログのトラップ ID は、本章で説明するアラーム ID（specific）に 10000 加えた数で表示されます（例えば、トラップ ID「275」の **mylexBBUFound** は、イベントログでは「10275」と表示されます）。

i イベントマネージャ では、アラームメール（**ログ**）を使用して、トラップを Windows または Linux のどちらのイベントログに書き込むかを指定できます。イベントログ内のイベントのソース名は、Windows と Linux の両方とも 「**ServerView Services**」です。

「**Unknown(不明) トラップ**」のイベントログのイベントタイプは、「**情報**」レベルになります。

5.3 トラップの概要

以下の表では、イベントマネージャに統合された MIB の概要を示しています。この内容は頻繁に更新されるため、この表と以下のトラップリストはスナップショットに過ぎず、完全ではありません。現在イベントマネージャに統合されている MIB を確認するには、「**アラーム設定**」ウィンドウ（「**アラームルール - アラームの割り当て**」の「**MIB**」列）またはイベントマネージャのオンラインヘルプにアクセスしてください。

表の後の項では、主なトラップのタイプの概要について説明します。この章の後の項で、トラップはカテゴリ別にアルファベット順に記載されています。各カテゴリ内では、トラップは名前別にアルファベット順に記載されています。

次の表の「**備考**」欄は、トラップ一覧が記載されているページを示しています。イベントマネージャを使ってトラップ一覧を印刷することもできます。詳しくは、85 ページ の「トラップ情報の表示」の項をご覧ください。

MIB	**トラップの発信元**	**備考**
aac.mib	Adaptec controller	
ADICLIBMIB-v2.mib		参照 120 ページ
adptinfo.mib		

表 18: MIB の概要

MIB	トラップの発信元	備考
Asmpro.mib	ASM PRIVATE COMMIB traps	参照 163 ページ
baspCfg.mib		
baspStat.mib		
baspTrap.mib	Broadcom Advanced Server traps	
BIOS.mib		
BUS.mib		
clariion1.mib	FibreCat	
clariion_fsc_2.mib	FibreCat	
Cmc32.mib	Rittal rack monitor	
CMS-TC.mib		
Ddm.mib	DuplexDataManager traps	参照 106 ページ
dec.mib	Compaq StorageWorks Enterprise Array Manager	参照 126 ページ
desktrap.mib	DeskView traps	
dhtraps.mib		
domagt.mib		
dptscsi.mib	DPT SCSI traps	参照 104 ページ
Duralink.mib	ADAPTEC Duralink traps	参照 94 ページ
DW.mib	DuplexWrite からのトラップ	参照 109 ページ
egeneraV1.mib		
Ether.mib		
eurologic.mib	FibreCat	
F5emt2o.mib	HP OpenView Network Node Manager	
fcswitch.mib	Fibre Channel switch	
FSC-AC-MIBV1.mib		
FSC-KVMS3-TRAP.mib		
FSC-RCA4PLUS-TRAP.mib		
FSC-S21611-TRAP.mib		
Hd.mib	ServerView agent: disks	参照 112 ページ
HPI-MIBV1.mib		

表 18: MIB の概要

MIB	トラップの発信元	備考
INTELLAN_V1.mib		
INVENT.mib		
iommib.mib	Adaptec	
Ldcm.mib	LAN Desk Client Manager from Intel traps	参照 165 ページ
Ldsm.MIB	LAN Desk Server Manager from Intel traps	参照 165 ページ
log3v1.mib	PRIMEPOWER log entries	参照 121 ページ
Lsi1030.mib		
LSIRAID-IDE.mib		
Megaraid.mib	RAID adapter from American Mega Trends Inc.	参照 130 ページ
Mlxraid.mib	MylexDiskArrayController traps	
MMB-COM-MIB.mib		
MMB-ComTrap-MIB.mib		
mp.mib	MultiPath traps	参照 113 ページ
Mylex.mib	RAID controller (Mylex DAC 960)	参照 114 ページ
net-snmp.mib		
netapp.mib	Network Appliance traps	
NT.mib		
NTCluster.MIB	Microsoft Cluster	参照 102 ページ
NW.mib		
OS2.mib		
pcihotplug.mib	SCSI device hot-plug traps	参照 119 ページ
Powernet.mib	American Power Conversion traps	参照 94 ページ
Ppc.mib	UPS traps 2	参照 172 ページ
primepower_xscf.mib	PRIMEPOWER hardware diagnostics	参照 120 ページ
promiseraid.mib		
promisev1.mib	Promise RAID controller traps	
PSA-COM-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-ComTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	

表 18: MIB の概要

MIB	トラップの発信元	備考
PSA-ExternalFileUnitTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LIN-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinBcm5700Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinEmulexTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinGdsTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinGlsTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinGrmpdTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinIntelE1000Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinIntelE100Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinLanComTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinLsiLogicTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinScsiComTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-LinTg3Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WIN-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WinBcm5700Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	

表 18: MIB の概要

MIB	トラップの発信元	備考
PSA-WinEmulexTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WinIntelE1000Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WinIntelE100Trap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
PSA-WinLsiLogicTrap-MIB.mib	PRIMEQUEST traps	
RAID.mib		
RFC1157.mib		
RFC1213.mib		
RFC1285.mib		
RFC1628.mib		
RMS-C_SNMPv1_contact.mib		
RMS-C_SNMPv1_humid1.mib		
RMS-C_SNMPv1_humid2.mib		
RMS-C_SNMPv1_main.mib		
RMS-C_SNMPv1_output.mib		
RMS-C_SNMPv1_temp2.mib		
Rompilot.mib	RomPilot traps	参照 133 ページ
S31.mib	Blade server traps	
SANMgrV1.mib	Pathlight SAN Data Gateway	

表 18: MIB の概要

MIB	トラップの発信元	備考
SC.mib	ServerControl traps	参照 134 ページ
SC2.mib		
SECURITY.mib		
Servervi.mib	FUJITSU ServerVisor traps	
ServerView.mib	ServerView traps	参照 146 ページ
Status.mib	ServerView status traps	参照 147 ページ
tapealrt.mib	Tape driver traps	参照 147 ページ
Threshold.mib		
TOK.mib		
Trap.mib	ServerView traps	参照 166 ページ
trap1493.mib	Switch traps	
trap1757.mib	Switch traps	
unicorn-trap.mib		
uniserv.mib	PRIMEPOWER Enterprise Server	参照 122 ページ
UNIX.mib		
Upsman.mib	Enterprise Specific Top Level MIB by Quazar GmbH, UPS traps 1	参照 172 ページ
v1_fscHaCl.mib	PRIMECLUSTER traps	
VMWARE-TRAPS-MIB.mib		
VV.mib		
WFM.mib	Wired-for-Management のトラップ	
wsatrap.mib	PRIMEPOWER hardware	

表 18: MIB の概要

5.3.1 Adaptec からのトラップ (Duralink.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.795.3.1.2.3

この項には、Adaptec からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
duralinkStatusTrap	1	リンクステータスが変化しました。	informational

表 19: Adaptec からのトラップ

5.3.2 APC からのトラップ (Powernet.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.318

この項には、APC からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
baseFanFailure	25	ベースモジュールのバイパス電源が故障しています。	major
batteryPackComm Established	27	UPS は外部バッテリーパックと通信できます。	informational
batteryPackCommLost	26	外部バッテリーパックとの通信が中断しました。	major
bypassPowerSupply Failure	24	ベースモジュールのバイパス電源が故障しています。	major
calibrationStart	28	バッテリー強度を確認するテストが UPS で開始されました。	informational
codeAuthentication Done	32	エージェントコードイメージに基づく認証が完了しました。	informational
communication Established	8	エージェントと電源の間で通信が確立しました。	informational
communicationLost	1	エージェントと電源の間の通信が中断しました。	major

表 20: APC からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
contactFault	18	Measure UPS のコンタクトの 1 つがデフォルト位置から変化しました。	major
contactFaultResolved	19	Measure UPS のコンタクトの 1 つで発生したエラーが解決しました。	informational
hardwareFailure Bypass	20	ハードウェアの故障のため、UPS がバイパスされています。	major
lowBattery	7	UPS システムバッテリーの残量が減り、まもなく電池切れになります。電源が回復しないと UPS は**スリープ**状態になり、負荷への電源を即座に遮断します。	major
powerRestored	9	**upsOnBattery** 状態の発生後に電源が復元しました。	informational
restartAgent	29	マネージャのコマンドによってエージェントが再起動しました。	informational
returnFromBypass	23	UPS がバイパスモードから復帰しました。	informational
returnFromLowBattery	11	UPS が **lowBattery** 状態から復帰しました。	informational
smartAvrReducing	31	UPS で SmartAVR 電圧低下が有効になりました。	minor
smartBoostOn	6	UPS で **SmartBoost** が有効になりました。	minor
softwareBypass	21	UPS はソフトウェアまたは IPS フロントパネルでユーザによってバイパスするよう設定されています。	minor

表 20: APC からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
switchedBypass	22	UPS は背面のスイッチでユーザによってバイパスするよう設定されています。	minor
upsBatteryNeeds Replacement	17	UPS バッテリーをすぐに交換する必要があります。	major
upsDiagnosticsFailed	3	内部 UPS 自己テストが失敗しました。	major
upsDiagnosticsPassed	10	内部 UPS 自己テストに合格しました。	informational
upsDipSwitchChanged	16	UPS DIP スイッチ設定が変更されました。	minor
upsDischarged	4	UPS バッテリーが放電しています。電源が失敗すると、直ちにバッテリー残量が少ない状態になります。必要なアクションに十分なランタイムを保証できません。	major
upsOnBattery	5	UPS がバッテリーにバックアップ電源を供給しています。	minor
upsOverload	2	UPS が定格容量の 100% を上回る負荷を検出しました。	major
upsRebootStarted	15	UPS がリブートシーケンスを開始しました。このとき、UPS はリブートします。	minor
upsSleeping	13	UPS はスリープモードに移行します。	minor
upsTurnedOff	12	UPS が管理用サーバによってオフに切り替えられました。	minor
upsTurnedOn	30	UPS がオンになりました。	informational
upsWokeUp	14	UPS がスリープモードから復帰しました。負荷への電力が復元しました。	informational

表 20: APC からのトラップ

5.3.3 ブレードシステムからのトラップ (s31.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.7244.1.1.1

この項には、ブレードシステムからのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
s31LivetimeError	1644	ブレードシステムの有効期間を超過しました。	minor
s31MgmtBladeAdded	1601	マネジメントブレードがブレードシステムに追加されました。	informational
s31MgmtBladeCriticalError	1605	ブレードシステムでのマネジメントブレードのステータスが「Critical」です。	critical
s31MgmtBladeError	1604	ブレードシステムでのマネジメントブレードのステータスが「Error」です。	major
s31MgmtBladeOk	1603	ブレードシステムでのマネジメントブレードのステータスは正常です。	informational
s31MgmtBladeRemoved	1602	マネジメントブレードがブレードシステムから取り外されました。	informational
s31NicDetectionFail	1646	マネジメントブレードがNIC 検出に失敗しました。	informational
s31PowerOverBudget	1645	電力制限を超過したため、ブレードシステムのサーバブレードの電源をオンにできませんでした。	minor
s31ServerBladeAdded	1606	サーバブレードがブレードシステムに追加されました。	informational

表 21: ブレードシステムからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
s31ServerBladeCritical Error	1610	ブレードシステムでのサーバブレードのステータスが「Critical」です。	critical
s31ServerBladeError	1609	ブレードシステムでのサーバブレードのステータスが「Error」です。	major
s31ServerBladeHot Replace	1640	サーバブレードがホットリプレースで追加されました。	informational
s31ServerBladeNewAdd	1639	サーバブレードが、ブレードシステムの空のスロットに追加されました。	informational
s31ServerBladeOk	1608	ブレードシステムでのサーバブレードのステータスは正常です。	informational
s31ServerBladeRemoved	1607	サーバブレードがブレードシステムから取り外されました。	informational
s31ServerBootError	1633	ブレードシステムのサーバブレードに、ブート可能な OS がありません。	informational
s31ServerBootWatchdog Expired	1636	ブレードシステムのサーバブレードの Boot ウォッチドッグが期限切れです。	informational
s31ServerPostError	1632	ブレードシステムのサーバブレードの電源投入セルフテストステータスが「Error」です。	informational
s31ServerPowerOff	1641	サーバブレードの電源がオフになりました。	informational
s31ServerPowerOn	1631	ブレードシステムのサーバブレードの電源がオンになりました。	informational

表 21: ブレードシステムからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
s31ServerShutdown	1634	ブレードシステムのサーバブレードがシャットダウンされました。	informational
s31ServerSoftware WatchdogExpired	1635	ブレードシステムのサーバブレードのソフトウェアウォッチドッグが期限切れです。	informational
s31SwitchBladeAdded	1611	スイッチブレードがブレードシステムに追加されました。	informational
s31SwitchBladeCritical Error	1615	ブレードシステムのスイッチブレードのステータスが「Critical」です。	critical
s31SwitchBladeError	1614	ブレードシステムのスイッチブレードのステータスが「Error」です。	major
s31SwitchBladeOk	1613	ブレードシステムのスイッチブレードのステータスは正常です。	informational
s31SwitchBladeRemoved	1612	スイッチブレードがブレードシステムから取り外されました。	informational
s31SysFanAdded	1616	システムファンがブレードシステムに追加されました。	informational
s31SysFanCriticalError	1620	ブレードシステムのシステムファンのステータスが「Critical」です。	critical
s31SysFanError	1619	ブレードシステムのシステムファンのステータスが「Error」です。	major
s31SysFanOk	1618	ブレードシステムのシステムファンのステータスは正常です。	informational

表 21: ブレードシステムからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
s31SysFanRemoved	1617	システムファンがブレードシステムから取り外されました。	informational
s31SysPowerSupplyAdded	1626	電源ユニットがブレードシステムに追加されました。	informational
s31SysPowerSupplyCriticalError	1630	電源ユニットのステータスが「Critical」です。	critical
s31SysPowerSupplyError	1629	ブレードシステムの電源ユニットが失敗しました。	major
s31SysPowerSupplyOk	1628	ブレードシステムの電源ユニットが再稼働しています。	informational
s31SysPowerSupplyRemoved	1627	電源ユニットがブレードシステムから取り外されました。	informational
s31SysTempCriticalError	1623	ブレードサーバのシステム温度センサの温度が危険レベルに達しました。	critical
s31SysTempError	1622	ブレードサーバのシステム温度センサの温度が正常範囲外です。	major
s31SysTempOk	1621	ブレードサーバのシステム温度センサの温度が正常範囲内です。	informational
s31SysTempSensorAdded	1642	システム温度センサがブレードシステムに追加されました。	informational
s31SysTempSensorBroken	1625	ブレードシステムのシステム温度センサが破損したか、または接続されていません。	major
s31SysTempSensorOK	1624	ブレードサーバのシステム温度センサが再稼働しています。	informational

表 21: ブレードシステムからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
s31SysTempSensor Removed	1643	システム温度センサがブレードシステムから取り外されました。	informational
s31TestTrap	1600	テストトラップがブレードシステムから送信されました（エラーなし）。	informational
s31TrapEventLog	1638	エラーがブレードシステムに記録されました。詳細は、サーバ管理のイベントのエラーログ（復旧）をご覧ください。	major
s31UserAuthentication Failure	1637	ユーザ認証の失敗がブレードシステムで検出されました。Performing the protocol.	major

表 21: ブレードシステムからのトラップ

5.3.4 クラスターからのトラップ (NTCluster.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231

この項には、クラスタからのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
sniWpChange ClusterActiveAgain	811	SNMP エージェントがクラスタサービスとの接続を確立しました。	informational
sniWpChange ClusterNoLonger Active	812	SNMP エージェントがクラスタサービスとの接続を失いました。	critical
sniWpChange ClusterNotFound Active	810	SNMP エージェントがクラスタサービスを開始しましたが、クラスタサービスと通信できませんでした。	critical
sniWpChange GroupAdded	851	新しいリソースグループが作成されました。	informational
sniWpChange GroupDeleted	850	リソースグループが削除されました。	informational
sniWpChange GroupProperty	853	リソースグループの設定が変更されました。	informational
sniWpChange GroupState	852	リソースグループのステータスが変更されました。	informational
sniWpChange NetInterfaceAdded	921	新しいネットワークインターフェースが作成されました。	informational
sniWpChange NetInterfaceDeleted	920	ネットワークインターフェースが削除されました。	informational
sniWpChange NetInterfaceProperty	923	ネットワークインターフェースの設定が変更されました。	informational
sniWpChange NetInterfaceState	922	ネットワークインターフェースのステータスが変更されました。	informational

表 22: クラスターからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sniWpChange NetworkAdded	911	ネットワークがクラスタに追加されました。	informational
sniWpChange NetworkDeleted	910	ネットワークがクラスタから削除されました。	informational
sniWpChange NetworkProperty	913	ネットワークの設定が変更されました。	informational
sniWpChange NetworkState	912	ネットワークのステータスが変更されました。	informational
sniWpChange NodeAdded	831	新しいノードがクラスタに追加されました。	informational
sniWpChange NodeDeleted	830	ノードがクラスタから完全に削除されました。	informational
sniWpChange NodeState	832	クラスタノードのステータスが変更されました。	informational
sniWpChange RegistryAttributes	895	クラスタのレジストリ属性が変更されました。	informational
sniWpChange RegistryKey	896	クラスタのレジストリキーが作成されたか、または削除されました。	informational
sniWpChange RegistryValue	897	クラスタのレジストリ値が変更されたか、または削除されました。	informational
sniWpChange ResourceAdded	861	新しいリソースがクラスタに作成されました。	informational
sniWpChange ResourceDeleted	860	クラスタリソースが削除されました。	informational
sniWpChange ResourceProperty	863	クラスタリソースの設定が変更されました。	informational
sniWpChange ResourceState	862	クラスタリソースのステータスが変更されました。	informational
sniWpChange ResourceTypeAdded	841	新しいタイプのリソースが作成されました。	informational

表 22: クラスターからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sniWpChange ResourceType Deleted	840	リソースタイプが削除されました。	informational
sniWpChange Unknown	801	クラスタ API から、関連付けられたトラップ定義を持たないノートタイプが返されました。	informational

表 22: クラスターからのトラップ

5.3.5 DPT からのトラップ (dptscsi.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.1597

この項には、DPT からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
dptArrayCfgChangeTrap	12	以下のイベントのいずれかのため、RAID アレイの構成が変更されました。 – 新しいアレイの作成 – 既存のアレイの削除 – アレイの変更（ストライプサイズの変更など）	informational
dptDevBlock ReassignedTrap	6	HBA がブロックを再割り当てしました。**dptScsiDevBadBlockNumber** には再割り当てされたブロック番号が含まれます。	minor

表 23: DPT からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
dptDevData InconsistentTrap	7	RAID 検証機能でデータの不整合が見つかりました。**dptScsiDevBadBlockNumber** と **dptScsiDevBadBlockCount** には、開始ブロック番号と、影響されるブロックの数がそれぞれ含まれます。	informational
dptDevError ThresholdHitTrap	8	特定のデバイスのステータスが変化し、エラー数がデバイスクラッシュのしきい値を超過しました。	informational
dptDevLocking StatusChangedTrap	10	ドライブのロックが開始 / 停止しました。	informational
dptDevReqSenseTrap	11	センサ情報の要求が HBA から届きました。	informational
dptDevStatus ChangedTrap	9	SCSI デバイスのステータスが変更されました。	informational
dptHbaCorrected HardRAMErrorTrap	4	HBA で ECC RAM エラーが発生し、修正しました。**dptScsiHbaBadMemoryAddress** には RAM アドレスが含まれます。	informational
dptHbaSoftRAM ErrorTrap	3	HBA で ECC RAM エラーが発生しましたが、エラーは物理ディスクブロックでは見つかりませんでした。**dptScsiHbaBadMemoryAddress** には RAM アドレスが含まれます。	informational
dptHbaTemperature ChangeTrap	2	正常な温度が HBA に復元されました。	informational

表 23: DPT からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
dptHbaUnCorrectable HardRAMErrorTrap	5	HBA で ECC RAM エラーが発生し、修正できませんでした。**dptScsiHbaBadMemoryAddress** には RAM アドレスが含まれます。	informational
dptHbaVoltage ChangeTrap	1	HBA で低電圧が検出されました。	major
dptUnknownErrorTrap	13	オブジェクト **dptScsiEventInfo** の値の定義に従って、イベントが発生しました。	informational

表 23: DPT からのトラップ

5.3.6 DuplexDataManager からのトラップ (Ddm.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

この項には、DuplexDataManager からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
FscDdmNewConfig	1400	DuplexWrite グループが新規作成されました。または既存の DuplexWrite グループに新しいディスクが追加されました。（ユーザによる操作）	informational
FscDdmPieceRemoved	1401	DuplexWrite から ディスクが削除されました。（ユーザによる操作）	informational
FscDdmConfigRemoved	1402	DuplexWrite グループが削除されました。（ユーザによる操作）	informational

表 24: DDM からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
FscDdmStatusSet	1403	DuplexWrite ディスクのステータスが設定されました。（ユーザによる操作）	minor
FscDdmUpdateStatus	1404	DuplexWrite ディスクのステータスがアップデートされました。	minor
FscDdmPieceRecovered	1405	DuplexWrite グループの復旧が正常に完了しました。	informational
FscDdmRecoverAborted	1406	DuplexWrite グループの復旧処理が中止されました。	minor
FscDdmReservationConflict	1407	Reservation conflict が発生しました。DuplexWrite グループは利用できません。グループで、（初期化でなく）オペレーションの conflict が発生すると、エラーになります。	major
FscDdmConfigChanged	1408	構成の変更が検出されました。	informational
FscDdmConfigInvalidated	1409	DuplexWrite グループの構成が無効と判定されました。構成情報は、次回 DuplexWrite グループがこのクラスターエレメントにアクセスする際に再度読み込まれます。	informational
FscDdmActiveLunChanged	1410	DuplexWrite グループの特定のディスクが選択され、リードコマンドが使用されました。	informational
FscDdmPieceFailed	1411	DuplexWrite グループでエラーが検出されました。	critical

表 24: DDM からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
FscDdmRootFlagChanged	1412	DuplexWrite グループのルートディスクビヘイビアが変更されました。	informational
FscDdmForceActive	1413	DuplexWrite グループのディスクの１つが、再起動時に強制活性されるようにマークされました。パートナーディスクはスナップショットとして利用できます。	informational
FscDdmNameChanged	1414	DuplexWrite グループの名前が変更されました。	informational
FscDdmPathFailed	1415	MultiPath グループの１つのパスでエラーが検出されしました。	critical
FscDdmRetry	1416	MultiPath グループの１つのパスでエラーが検出されました。もう一方のパスでコマンドの再試行が成功しました。	major
FscDdmActivePortChanged	1417	MultiPath グループのアクティブパスが変更されました。	informational
FscDdmReconfigured	1418	MultiPath の構成が変更されました。	informational
FscDdmStatusChanged	1419	MultiPath のパスのステータスが変更されました。	informational
FscDdmAutoRecovered	1420	MultiPath グループのパスが有効になりました（自動復旧）。	informational
FscDdmErrorCleared	1421	MultiPath のパスのエラーが解消されました。	informational
FscDdmPnPRemove	1422	Plug and Play Removal が検出されました。	informational

表 24: DDM からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
FscDdmPnPNew	1423	Plug and Play Add が検出されました。	informational
FscDdmDdmCluster	1424	DuplexDataManager service により、クラスター構成の変更が検出されました。	informational

表 24: DDM からのトラップ

5.3.7 DuplexWrite からのトラップ (DW.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

この項には、DuplexWrite からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
sieDWActiveLunChanged	1310	ユーザが DuplexWrite グループの読み取りパスを特定のディスクに変更しました。	informational
sieDWConfig Changed	1308	ドライバが構成を再度読み取り、変更された構成を検出しました。	informational
sieDWConfigInvalidated	1309	DuplexWrite クラスタサービスがディスクの構成情報を無効にしました。このクラスタ要素上のディスクに次回アクセスする前に、構成情報が再度読み取られます。	informational

表 25: DuplexWrite からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sieDWDiskRegistered	1351	ユーザが、登録を変更してDuplexWrite で使用するディスクをロックまたはリリースしました。この設定は、システムが再起動されるまでドライバに影響しません。	informational
sieDWConfigRemoved	1302	ユーザが DuplexWrite グループを削除しました。構成ユーティリティによってアクションが要求されました。	informational
sieDWNewConfig	1300	ユーザが構成ユーティリティの要求に従って、新しい DuplexWrite グループを作成したか、既存のDuplexWrite グループを追加しました。	informational
sieDWPieceFailed	1311	ドライバが DuplexWrite グループの 1 つのディスク上でエラーを検出しました。	critical
sieDWPieceRecovered	1305	DuplexWrite グループが正常にリカバリされました。DuplexWrite グループの両方の要素のステータスが「オンライン」です。	informational
sieDWPieceRemoved	1301	ユーザがディスクをDuplexWrite グループから削除しました。構成ユーティリティによってアクションが要求されました。	informational
sieDWRecoverAborted	1306	ユーザが DuplexWrite グループのリカバリプロセスを中断しました。	minor

表 25: DuplexWrite からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sieDWRefreshFinished	1350	ドライバインターフェースで内部データ構造が更新されました。	informational
sieDWReservationConflict	1307	ドライバが予約の競合を検出しました。DuplexWrite グループ全体にアクセスできなくなりました。初期化フェーズ中に発生した場合は、エラーではありません。	major
sieDWStatusSet	1303	ユーザが DuplexWrite グループのディスクのステータスを変更しました。構成ユーティリティによってアクションが要求されました。	minor
sieDWUpdateStatus	1304	ドライバが DuplexWrite グループのステータスを更新しました。	minor

表 25: DuplexWrite からのトラップ

5.3.8 ハードディスク (S.M.A.R.T.) からのトラップ (Hd.mib)

この項には、ハードディスクからのトラップがアルファベット順に記載されています。

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

トラップ名	ID	意味	重要度
sniSMARTFailure Predicted	750	S.M.A.R.T. がハードディスクの故障を予測しました。	critical
sniSMARTMonitoring Disabled	751	S.M.A.R.T. の構成が変更されました。	informational

表 26: ハードディスクからのトラップ

5.3.9 SNMP 標準トラップ

この項には、SNMP 標準トラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
coldStart	0	エージェントが再起動されました。MIB ビューオブジェクトが変更されたかもしれません。	minor
egpNeighborLoss	5	管理対象ノードの EGP 隣接のステートが **UP** から **DOWN** に変わりました。	major
linkDown	2	管理対象ノードのインターフェースのステート が **UP** から **DOWN** に変わりました。	critical
linkUp	3	管理対象ノードのインターフェースのステートが **DOWN** から **UP** に変わりました。	minor

表 27: SNMP 標準トラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
warmStart	1	エージェントが再起動されました。オブジェクトは変更ありません。	minor

表 27: SNMP 標準トラップ

5.3.10 MultiPath からのトラップ (mp.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

この項には、MultiPath からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
sieMP ActivePortChanged	1202	MultiPath グループのパスが有効または無効にされました。	informational
sieMPAutoRecovered	1205	エラーが発生していた MultiPath グループのパスが、自動復旧によりアクセス可能になりました。	informational
sieMPError	1200	MultiPath グループは現在1つのパスだけで構成されており、そのパスでエラーが検出されました。MultiPath グループは使用できません。	critical
sieMPErrorCleared	1206	MultiPath グループのパスのエラーは解消されました。	informational
sieMPReconfigured	1203	MultiPath グループからパスが削除されました。または、MultiPath グループにパスが追加されました。	informational

表 28: MultiPath traps

トラップ名	ID	意味	重要度
sieMPRetry	1201	MultiPath グループのパスでエラーが検出されました。もう一方のパスでコマンドの再試行が行われています。	critical
sieMPStatusChanged	1204	MultiPath グループの設定（自動復旧やロードバランスのオン／オフ、特定のパスの有効／無効）が変更されました。	informational

表 28: MultiPath traps

5.3.11 Mylex からのトラップ (Mylex.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

この項には、Mylex からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
mylexAdapterDied	221	ディスクアレイコントローラとの接続が中断しました。	critical
mylexAutoRebuild Started	200	ユニットの自動リビルドが開始されました。	critical
mylexAutoRebuild Started2	222	システムドライブの自動リビルドが開始されました。	informational
mylexBBUFound	275	バッテリーバックアップユニットが見つかりました。	informational
mylexBBUPowerLow	276	バッテリーバックアップユニットの電源が低下しています。	critical
mylexBBUPowerOK	277	バッテリーバックアップユニットの電源は正常です。	informational

表 29: Mylex からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
mylexGamDriver IncorrectVersion	262	間違ったバージョンの GAM ドライバがインストールされています。	minor
mylexGamDriverMissing	261	GAM ドライバがインストールされていないか、起動されていません。	minor
mylexInitialization Cancelled	231	システムドライブの初期化がキャンセルされました。	informational
mylexInitializationDone	230	システムドライブの初期化が正常に完了しました。	informational
mylexInitializationFailed	232	システムドライブの初期化に失敗しました。	major
mylexInitializationStarted	229	システムドライブの初期化が開始されました。	informational
mylexLogicalDriveCritical	215	論理ドライブが危険な状態です。RAID 構成のドライブの 1 つが故障しました。	major
mylexLogicalDriveOffline	214	論理ドライブがオフライン状態です。	critical
mylexLogicalDriveOnline	216	論理ドライブがオンライン状態です。	critical
mylexManualRebuild Started	201	手動リビルドが開始されました。	informational
mylexManualRebuild Started2	223	手動リビルドが開始されました。リビルドが正常に完了した後、**mylexRebuildDone2** が送信されます。	informational
mylexParityCheck Cancelled	210	パリティチェックがキャンセルされました。	informational
mylexParityCheckDone	209	パリティチェックが正常に完了しました。	informational
mylexParityCheckError	212	パリティチェックエラーが検出されました。	major

表 29: Mylex からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
mylexParityCheck LogicalDriveFailed	213	パリティチェック：論理ドライブが故障しました。	major
mylexParityCheckStarted	208	パリティチェックが開始されました。	informational
mylexParityCheckStatus	211	パリティチェックのステータス。	informational
mylexPhysicalDevice Added	257	物理デバイスが追加されました。	informational
mylexPhysicalDevice Alive	218	物理デバイスがオンライン状態です。	informational
mylexPhysicalDevice Died	217	物理デバイスが停止しています。	critical
mylexPhysicalDevice HardError	251	物理デバイスで永久エラーが発生しました。	minor
mylexPhysicalDevice Hotspare	250	物理デバイスは現在ホットスペア状態です。	informational
mylexPhysicalDevice MiscError	254	物理デバイスで様々なエラーが発生しました。	minor
mylexPhysicalDevice ParityError	253	物理デバイスでパリティエラーが発生しました。	minor
mylexPhysicalDevice Prefailure	255	物理デバイスで障害予兆が報告されました。	major
mylexPhysicalDevice Removed	258	物理デバイスが取り外されました。	major
mylexPhysicalDevice SoftError	252	物理デバイスで標準エラー（ソフトエラー）が発生しました。	minor
mylexPhysicalDevice Unconfigured	256	物理デバイスが構成されていません。	minor
mylexRaidExpansion Done	236	RAID 容量拡張が正常に完了しました。	minor
mylexRaidExpansion Failed	237	RAID 容量拡張が失敗しました。	major

表 29: Mylex からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
mylexRaidExpansion Started	235	RAID 容量拡張が開始されました。	informational
mylexRaidTypeChanged	240	システムドライブの RAID タイプが変更されました。	informational
mylexRebuildCancelled	203	リビルドがキャンセルされました。	informational
mylexRebuildCancelled2	225	システムドライブのリビルドがキャンセルされました。	informational
mylexRebuildDone	202	リビルドが正常に完了しました。	informational
mylexRebuildDone2	224	リシステムドライブのビルドが正常に完了しました。	informational
mylexRebuildError	205	リビルドエラーが検出されました。	major
mylexRebuildError2	226	システムドライブでリビルドエラーが検出されました。	major
mylexRebuildLogical DriveFailed	207	不良ブロックが検出されました。	major
mylexRebuildLogical DriveFailed2	228	システムドライブのリビルド完了。サーバのシステムドライブが故障しました。	major
mylexRebuildNew DeviceFailed	206	リビルド完了。新規デバイスが故障しました。	major
mylexRebuildNewDevice Failed2	227	システムドライブでリビルド完了。新規デバイスが故障しました。	major
mylexRebuildStatus	204	リビルドのステータスです。	informational
mylexSMART ConfigurationChanged	271	S.M.A.R.T の構成が変更されました。	informational

表 29: Mylex からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
mylexSMART FailurePredicted	270	物理ディスクについて、S.M.A.R.T. の故障の予兆を検知しました。	critical
mylexStateChange TableFull	220	キャッシュ状態変更テーブルが一杯です。最後の warm start 以降、あまりに多くの構成変更が行われました。	major
mylexSystemDriveBad Block	238	システムドライブで不良ブロックが検出されました。	minor
mylexSystemDrive Created	233	システムドライブが作成されました。	informational
mylexSystemDrive Deleted	234	システムドライブが削除されました。	informational
mylexSystemDrive SizeChanged	239	システムドライブのサイズが変更されました。	informational
mylexWriteBackError	219	コントローラーキャッシュライトバックエラー。	major
mylexWriteBackError2	260	コントローラーキャッシュライトバックエラー。	major

表 29: Mylex からのトラップ

5.3.12 PCI HotPlug からのトラップ (pcihotplug.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

この項には、PCI HotPlug からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
sieDeviceHotPlug TrapHotAdd	1022	SCSI デバイスが追加されました。	informational
sieDeviceHotPlug TrapHotRemoval	1020	SCSI デバイスが取り外されました。	informational
sieDeviceHotPlug TrapHotReplace	1021	SCSI デバイスが交換されました。	informational
siePciHotPlugTrap EndHotPlugAction	1002	**pciHotPlugTrapPhysicalSlotNumber** オブジェクトに保持された物理スロット番号のホットプラグアクションが終了しました。	informational
siePciHotPlugTrap HotRemoval	1000	ホットリムーブアクションが開始しました。	informational
siePciHotPlugTrap HotReplace	1001	ホットリプレースアクションが開始しました。	informational

表 30: PCI HotPlug からのトラップ

5.3.13 PRIMEPOWER からのトラップ

この項では、PRIMEPOWER からのトラップについて説明します。

ADICLIBMIB-V2 のトラップ（ADICLIBMIB-v2.mib）

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.3764.3

トラップ名	ID	意味	重要度
doorStateChange	2	ドアの状態が変化しました。	informational
エラー	6	デバイスにエラーがあります。エラーコードとエラーデータが表示されます。	informational
mailboxStateChange	3	メールボックスの状態が変化しました。	informational
sac	7	デバイスが SAC コードを生成しました。	informational
shutdown	5	デバイスがシャットダウンされました。シャットダウンの状態が表示されます。	informational
startup	4	デバイスが起動しました。シャットダウンの状態が表示されます。	informational
statusChange	1	ステータスが変化しました。以前のステータスが表示されます。	informational

表 31: ADICLIBMIB からのトラップ

DOMAIN-MIB からのトラップ (domagt.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.41

トラップ名	ID	意味	重要度
domNodeAdded	52	クライアントがドメインに追加されました。	informational
domNodeDeleted	53	クライアントが削除されました。	informational

表 32: DOMAIN-MIB traps

トラップ名	ID	意味	重要度
domNodeOffline	50	クライアントがオフラインになりました。	informational
domNodeOnline	51	クライアントがオンラインになりました。	informational
domNoManagementServer	55	エージェントが停止しました。	informational
domStartTrap	54	エージェントが開始しました。	informational

表 32: DOMAIN-MIB traps

FSC-LOG3-MIB からのトラップ (log3v1.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.46.2

トラップ名	ID	意味	重要度
log3AlertNotice	2	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	critical
log3CriticalNotice	3	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	critical
log3DebugNotice	8	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	informational
log3EmergencyNotice	1	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	critical
log3ErrorNotice	4	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	major

表 33: FSC-LOG3-MIB traps

トラップ名	ID	意味	重要度
log3InformationalNotice	7	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	informational
log3NoticeNotice	6	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	informational
log3OtherNotice	9	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	informational
log3WarningNotice	5	log3Event が発生しました。システム、モジュール、エラーおよびテキストが表示されます。	minor

表 33: FSC-LOG3-MIB traps

UNISERV-MIB からのトラップ (uniserv.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.41

トラップ名	ID	意味	重要度
kaiPartitionOffline	700	パーティションの電源がオフになりました。	minor
kaiPartitionOnline	701	パーティションの電源がオンになりました。	informational

表 34: UNISERV-MIB traps

PRIMEPOWER-XSCF-MIB からのトラップ (primepower_xscf.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.211.1.15.2.1

トラップ名	ID	意味	重要度
scfAgentStart	5	XSCF エージェントが開始しました。	informational

表 35: PRIMEPOWER-XSCF-MIB traps

トラップ名	ID	意味	重要度
scfHardwareDefectRepair	7	ハードウェアの故障が修復されました。	minor
scfHardwareDefectSet	1	ハードウェアの故障が発生しました。	critical
scfHardwareDefectUnset	2	ハードウェアの故障がリセットされました。	informational
scfHardwareErrorRepair	6	ハードウェアエラーが修復されました。	minor
scfHardwareErrorSet	3	ハードウェアエラーが発生しました。	critical
scfHardwareErrorUnset	4	ハードウェアエラーがリセットされました。	informational

表 35: PRIMEPOWER-XSCF-MIB traps

FSC-HACL-MIB からのトラップ (v1_fscHaCl.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.42.2.0

トラップ名	ID	意味	重要度
fscHaClApplicationStateChanged	5	アプリケーションの状態が変化しました。	major
fscHaClClusterInfAvailable	1	クラスタ情報があります。InfoOperScope が表示されます。	informational
fscHaClClusterInfNotAvailable	2	クラスタ情報が使用できなくなりました。InfoOperScope が表示されます。	major
fscHaClMonitorStateChanged	3	クラスタ監視の状態が変化しました。	major
fscHaClResourceStateChanged	6	リソースの状態が変化しました。	minor
fscHaClSystemStateChanged	4	システムの状態が変化しました。	critical

表 36: FSC-HACL-MIB traps

WSA-TRAP-MIB からのトラップ (wsatrap.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.41

トラップ名	ID	意味	重要度
testTrap	600	サーバからのテストトラップ（エラーなし）。	informational
wsaAgentStart	5	WsaAgent が開始しました。	informational
wsaControllerHardwareDefectSet	307	コントローラハードウェアの故障が発生しました。	critical
wsaControllerHardwareErrorSet	308	コントローラハードウェアのエラーが発生しました。	critical
wsaControllerRepair	309	コントローラが修復されました。	minor
wsaDefectRepair	7	故障が修復されました。	minor
wsaDROperationStarted	312	DR 処理が開始しました。	informational
wsaDROperationFinished	313	DR 処理が終了しました。	informational
wsaEnvironmentHardwareDefectSet	301	環境ハードウェアの故障が発生しました。	critical
wsaEnvironmentHardwareErrorSet	302	環境ハードウェアのエラーが発生しました。	critical
wsaEnvironmentRepair	303	環境コンポーネントが修復されました。	minor
wsaErrorRepair	6	エラーが修復されました。	minor
wsaGenLogMessage	900	サーバの 1 つのモジュールにエラーが発生しました。	informational
wsaGenLogMessageInfo	910	サーバの 1 つのモジュールにエラーが発生しました。	informational
wsaGenLogMessageCritical	913	サーバの 1 つのモジュールにエラーが発生しました。	critical
wsaGenLogMessageMajor	912	サーバの 1 つのモジュールにエラーが発生しました。	major

表 37: WSA-TRAP-MIB traps

トラップ名	ID	意味	重要度
wsaGenLogMessageMinor	911	サーバの 1 つのモジュールにエラーが発生しました。	minor
wsaHardwareActiveSet	315	ハードウェア有効が設定されました。	informational
wsaHardwareDeactiveSet	314	ハードウェア無効が設定されました。	critical
wsaHWComponentAttached	316	ハードウェアコンポーネントが接続されました。	informational
wsaHWComponentDetached	317	ハードウェアコンポーネントが接続解除されました。	informational
wsaLarHardwareDefectSet	1	ハードウェアの故障が発生しました。	critical
wsaLarHardwareDefectUnset	2	ハードウェアの故障が修復されました。	informational
wsaLarHardwareErrorSet	3	ハードウェアエラーが発生しました。	critical
wsaLarHardwareErrorUnset	4	ハードウェアエラーが修復されました。	informational
wsaLUNStateChanged	101	LUN の状態が変更されました。	critical
wsaMonitoringRuleInitialized	311	EEM ルールが初期化されました。	minor
wsaMonitoringRuleMatched	310	EEM ルールが照合されました。	informational
wsaNodeStatusIntegrated	24	ノードが統合されました。	informational
wsaNodeStatusNotavail	25	ノードを使用できません。	critical
wsaNodeStatusNotrunning	26	ノードが実行されていません。	critical
wsaRAIDControllerDefect	102	RAID コントローラの故障が発生しました。	critical
wsaRAIDDiskDefect	103	RAID ディスクの故障が発生しました。	critical

表 37: WSA-TRAP-MIB traps

トラップ名	ID	意味	重要度
wsaStorageHardwareDefectSet	304	ストレージハードウェアの故障が発生しました。	critical
wsaStorageHardwareErrorSet	305	ストレージハードウェアのエラーが発生しました。	critical
wsaStorageRepair	306	ストレージコンポーネントが修復しました。	minor

表 37: WSA-TRAP-MIB traps

5.3.14 PXRE からのトラップ (dec.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.36.2.15.21

この項には、PXRE からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
cacheBatteryFailureTrap	7	コントローラキャッシュバッテリーが失敗しました。キャッシュバッテリーを交換するか、充電してください。	major
cacheBattery InformationTrap	9	コントローラキャッシュバッテリーの状態は「**GOOD**」です。	informational
cacheBatteryLowTrap	8	コントローラキャッシュバッテリーの状態は「**LOW**」です。キャッシュバッテリーを交換するか、充電してください。	minor
communication FailureTrap	12	サブシステムとの通信が失敗しました。原因として、データパスの中断、通信 LUN の障害、2 台以上の電源の障害、2 台以上のファンの失敗、温度超過、両方のコントローラの失敗が考えられます。	critical

表 38: PXRE からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
communicationInformationTrap	13	サブシステムとの通信が回復しました。	informational
controllerFailureTrap	14	サブシステムのセカンダリコントローラが失敗しました。コントローラを交換してください。原因として、PCMCIA メモリカードが取り出された、コントローラが物理的に取り外された、実際にハードウェアが故障したことが考えられます。	major
controllerInformationTrap	15	サブシステムのセカンダリコントローラが復元されました。	informational
diskFailureTrap	1	ディスクドライブが失敗しました。ディスクの位置はディスク名で指定されます。ディスクデバイスを交換してください。名前の中の番号は、ポート、ターゲット、コントローラペアの LUN を示します。 例： – DISK10100 はポート 1、ターゲット 01、LUN 00 のディスクです。 – DISK30300 はポート 3、ターゲット 03、LUN 00 のディスクです。	major

表 38: PXRE からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
diskInformationTrap	2	ディスクドライブが復元されました。ディスクの位置はディスク名で指定されます。名前の中の番号は、ポート、ターゲット、コントローラペアの LUN を示します。 例： – DISK10100 はポート 1、ターゲット 01、LUN 00 のディスクです。 – DISK30300 はポート 3、ターゲット 03、LUN 00 のディスクです。	informational
externalInputFailureTrap	20	ユーザ定義の EMU への外部入力は失敗を示します。状態が「**FAILURE**」の場合、ユーザ定義の外部入力デバイスの 1 つが問題を報告しています。	major
externalInput InformationTrap	21	ユーザ定義の EMU への外部入力はリカバリを示しています。	informational
fanFailureTrap	5	指定された場所のファンが失敗しました。ファンを交換してください。	major
fanInformationTrap	6	指定された場所のファンが修復されました。	informational
lunFailureTrap	16	LUN が失敗し、オフラインになりました。原因として、失敗した LUN を構成するディスクが多すぎる、OS がその他の理由で LUN と通信できなくなったことが考えられます。	critical

表 38: PXRE からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
lunInformationTrap	19	再構築プロセスが正常に完了したため、LUN が最適化されました。	informational
lunReconstructTrap	17	LUN が再構築プロセスを開始しましたが、通常の用途に使用できます。原因として、セットに挿入するスペアとしてディスクドライブが作成された、既存のスペアがメンバーディスクデバイスが失敗した際に再構築のために自動的にセットに追加されたことが考えられます。	minor
lunReducedTrap	18	メンバーディスクデバイスが失敗したため、LUN が非冗長になりました。失敗したディスクデバイスを交換して、スペアをシステムに追加して再構築を行ってください。	major
powerSupplyFailureTrap	3	指定された場所の電源ユニットが失敗しました。電源ユニットを交換してください。	major
powerSupply InformationTrap	4	電源ユニットが回復しました。	informational
temperature InformationTrap	11	温度センサが、「**WARNING**」しきい値を下回る温度を示しています。	informational
temperatureOver ThresholdTrap	10	温度センサが「**WARNING**」しきい値を上回りました。用途に応じて、周辺温度を下げるか、または内部しきい値を上げてください。	major

表 38: PXRE からのトラップ

5.3.15 RAID Adapter からのトラップ (Megaraid.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.16.1.1.200

この項には、RAID Adapter からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
rtBatteryMissing	9020	アダプタ **%d**: バッテリーモジュールがありません。	informational
rtBattery TemperatureHigh	9022	アダプタ **%d**: バッテリーモジュールの温度が危険しきい値を超過しました。	informational
rtBatteryVolatageLow	9021	アダプタ **%d**: バッテリーモジュールの電圧が低下しています。	informational
rtCheck ConditionStatus	9018	アダプタ **%d**、チャネル **%d**、ターゲット **%d**: Sense_Key-**0x%x** ASC-**0x%x** ASCQ-**0x%x** でコマンドが完了しました。	informational
rtCheck ConsistencyAborted	9010	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 一貫性チェックがユーザによって中断されました。	informational
rtCheck ConsistencyCompleted	9009	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 一貫性チェックが完了しました。不整合は見つかりませんでした。	informational
rtCheck ConsistencyFailed	9012	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 一貫性チェックが失敗しました。	informational
rtCheck ConsistencyStarted	9008	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 一貫性チェックが開始しました。	informational
rtConfigUpdated	9001	アダプタ **%d**: 新しい構成が書き込まれました。	informational

表 39: RAID Adapter からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
rtConsistency Corrected	9011	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 一貫性チェック処理が完了しました。不整合は解消されました。	informational
rtInitializeAborted	9006	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 初期化がユーザによって中断されました。	informational
rtInitializeCompleted	9005	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 初期化が正常に完了しました。	informational
rtInitializeFailed	9007	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 初期化が失敗しました。	informational
rtInitializeStarted	9004	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 初期化が開始しました。	informational
rtLogicalDrive StateChange	9003	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 状態が **%s** から **%s** に変化しました。	informational
rtNewDriveInserted	9019	アダプタ **%d**、チャネル **%d**、ターゲット **%d**: 新しいデバイスが挿入されました。	informational
rtPhysicalDrive StateChange	9002	アダプタ **%d**、チャネル **%d**、ターゲット **%d**: ドライブの状態が **%s** から **%s** に変化しました。	informational
rtPredictiveFailures Exceeded	9016	アダプタ **%d**、チャネル **%d**、ターゲット **%d**: 故障の予兆を報告しました。ドライブ識別文字列 = **%s**、センスキー = **0x%x**、ASC = **0x%x**、ASCQ = **0x%x**。	informational

表 39: RAID Adapter からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
rtPredictiveFailures False	9017	アダプタ **%d**、チャネル **%d**、ターゲット **%d**: 故障の予兆しきい値の超過を報告しました [**FALSE**]。ドライブ識別文字列 = **%s**、センスキー = **0x%x**、ASC = **0x%x**、ASCQ = **0x%x**。	informational
rtReconstruction Completed	9014	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 再構築が正常に完了しました。	informational
rtReconstructionFailed	9015	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 再構築が失敗しました。	informational
rtReconstruction Started	9013	アダプタ **%d**、論理ドライブ **%d**: 再構築が開始しました。	informational

表 39: RAID Adapter からのトラップ

5.3.16 RomPilot からのトラップ (Rompilot.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.2487

この項には、RomPilot からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
RomPilotColdReset	258	Phoenix RomPilot がコールドシステムリセットの後に読み込まれました。	informational
RomPilot DiagnosticReset	259	Phoenix RomPilot が診断システムリセットの後に読み込まれました。	informational
RomPilotFatalError	769	Phoenix RomPilot が致命的エラーを検出しました。	informational
RomPilotGenericBoot	512	Phoenix RomPilot が汎用ブートを通知しました（OS を読み込む直前）。	informational
RomPilotIDEBootReset	260	Phoenix RomPilot が IDE ブートシステムリセットの後に読み込まれました。	informational
RomPilotOSStarted	1280	Phoenix RomPilot が OS が開始したことを通知しました。	informational
RomPilot PostWarningError	771	Phoenix RomPilot が警告後エラーを検出しました。	informational
RomPilotPressF1	770	Phoenix RomPilot が実行中で、続行するには [F1] キーを押す必要があります。	informational
RomPilot UnspecifiedReset	256	Phoenix RomPilot が未指定のシステムリセットの後に読み込まれました（コールドリセットを推定）。	informational

表 40: RomPilot からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
RomPilotWarmReset	257	Phoenix RomPilot がウォームシステムリセットの後に読み込まれました。	informational

表 40: RomPilot からのトラップ

5.3.17 ServerControl からのトラップ (SC.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

この項には、ServerControl からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
cabinetNotConfigured	623	キャビネットが構成されていません。	informational
cabinetSwitchedOff	617	キャビネットの電源が切断されました。	informational
cabinetSwitchedOn	618	キャビネットの電源が投入されました。	informational
correctableMemError	643	訂正可能なメモリエラーが発生しました。	minor
correctableMemErrorAddr	637	訂正可能なメモリエラーが **address** で発生しました。	minor
correctableMemErrorBank	639	訂正可能なメモリエラーが **bank** で発生しました。	minor
correctableMemErrorModule	641	訂正可能なメモリエラーが **module** で発生しました。	minor
fanCriticalError	622	ファンが危険な状態です。近い将来故障の可能性があります。	informational
fanError	601	ファンが故障しました。	critical
fanOk	629	ファンは正常です。	informational
frontDoorStatusChanged	646	フロント扉の状態が変化しました。	informational

表 41: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
housingOpenStatus Changed	647	筐体カバーの状態が変化しました。	informational
internalError	620	サーバ管理コントローラーで内部エラーが発生しました。	informational
memErrorModuleFailing	669	メモリモジュールが故障しました。	major
memErrorModule Prefailure	668	メモリモジュールの故障が予測されます（故障予兆）。	major
memErrorModule Replaced	670	メモリモジュールが故障し、ホットスペアメモリに切り替わりました。	major
notEnoughCabinets	615	拡張記憶装置の実際の数が、構成されている数を下回っています。	major
powerOffTimeReached	645	電源切断時刻になりました。	informational
powerSupplyAdded	625	電源装置が取り付けられました。	informational
powerSupplyFailed	626	電源装置が故障しました。	major
powerSupplyOk	627	電源装置が動作を再開しました。	informational
powerSupplyRemoved	624	電源装置が取り外されました。	informational
powerSupplyStatus Critical	628	電源装置の稼動が不十分です。	critical
scbBBUNotdetected	614	BBU が構成されていますが、BBU は検出されませんでした。	informational
scbUnconfiguredBBU Detected	613	BBU が検出されましたが、BBU は構成されていません。	informational

表 41: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
scbUnconfiguredUPS Detected	611	UPS が検出されましたが、UPS は構成されていません。	informational
scbUPSNotdetected	612	UPS が構成されていますが、UPS は検出されませんでした。	major
selftestError	609	サーバ管理コントローラーが故障しました。	critical
selftestWarning	608	セルフテスト中、サーバ管理コントローラーにより軽度の問題が検出されました。	minor
serverManagement Disabled	631	サーバ管理 BIOS が無効です。	informational
serverShutdown	621	サーバがシャットダウンされました。	informational
sieScBootCountZero	666	電源 ON 時にブートリトライカウンタが 0 になります。	major
sieScBootError	661	ブート可能な OS が見つかりません。	informational
sieScBootWatchdogExpired	662	ブート watchdog が期限切れです。	informational
sieScCpuPrefailure	673	CPU の故障が予測されます（故障予兆）。	major
sieScDiagnosticBoot	665	サーバはリセットされ、診断ブートが可能になりました。	informational
sieScMessageLogFull	667	システムイベントログが一杯になりました。これ以上のメッセージはロギングできません。wrap-around ログタイプではこのトラップは発行されません。	minor

表 41: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
sieScMessageLog Warning	672	システムイベントログエントリ数が、警告閾値を超えました。	minor
sieScNoBootCpu	658	有効なブート CPU が見つからないため、システムブートが失敗しました。	informational
sieScPostError	659	電源投入セルフテスト（POST）でエラーが検出されたため、システムブートが失敗しました。	informational
sieScPowerFail	674	特定のキャビネットで DC 電源が故障しました。この状態が発生すると、システムが停止する可能性があります。	critical
sieScPowerOn	657	サーバに電源が投入されました。	informational
sieScSetupEntered	660	BIOS セットアップが開始されました。	informational
sieScSoftwareWatchdog Expired	663	ソフトウェア watchdog が期限切れになりました。	informational
sieScUserAuthentication Failure	664	PPP、FTP、HTTP または telnet で、ユーザ認証失敗が検出されました。	major
sniScCpuSpeedChanged	656	CPU 温度が高温となったため、CPU スピードが変更されました。	informational
sniScFanAdded	653	指定されたホットプラグファンが取り付けられました。	informational
sniScFanRemoved	654	指定されたホットプラグファンが取り外されました。	informational
sniScPowerSupply RedundancyLost	671	電源の冗長性が失われました。	minor

表 41: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
sniScRedundant FanFailed	648	指定された冗長ファンが故障しました。	major
sniScRedundant PowerSupplyFailed	649	冗長ホットリプレース電源が故障しました。	major
sniScShutdown Cancelled	655	サーバのシャットダウンがユーザによりキャンセルされました。	informational
sniScVoltageOk	650	電源装置の電圧が再び正常範囲内に戻りました。	informational
sniScVoltageTooHigh	652	電源装置の電圧が高すぎます。	critical
sniScVoltageTooLow	651	電源装置の電圧が低すぎます。	critical
svCommunication Established	636	サーバ管理コントローラーとの通信が確立されました。	informational
svCommunicationFailure	610	サーバ管理コントローラーとの通信が切断されました。	critical
tempCritical	604	温度が危険レベルに達しました。	critical
tempOk	602	温度は正常範囲内です。	informational
tempSensorBroken	630	温度センサが故障しているか、接続されていません。	major
tempSensorOk	635	温度センサが動作を再開しました。	informational
tempWarn	603	温度が警告レベルに達しました。	major
testTrap	600	トラップ接続を確認するためのテストトラップです。	informational
tooManyCabinets	616	ストレージの実際の数が、構成されている数を超えています。	minor

表 41: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
trapAcFail	632	AC 電源が故障しました。	critical
trapDuplicateCabinetId	633	2 つまたはそれ以上のキャビネット（サーバまたはストレージ）が同じ ID を持っています。	major
trapEventLog	634	エラーが記録されました。詳細は、サーバ管理のイベント／エラーログ（復旧）をご覧ください。このイベントは、サーバ管理エージェント起動前にエラーが発生した場合や、特定のトラップがないエラーの場合に発生する可能性があります。	major
trapOnBattery	606	AC 電源が故障しています。キャビネットはバッテリー電源で作動しています。UPS はバッテリー電源またはバックアップ電源ユニット（BBU）からの電流で作動しています。このトラップは、メイン電源が復活するか、システムの電源が切断されるまで、1 分おきに繰り返し送信されます。	critical
trapOnMains	607	AC 電源は正常です。	informational
uncorrectableMemError	644	訂正不可能なメモリエラーが発生しました。	critical
uncorrectableMem ErrorAddr	638	訂正不可能なメモリエラーが **address** で発生しました。	critical
uncorrectableMemError Bank	640	訂正不可能なメモリエラーが **bank** で発生しました。	critical

表 41: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
uncorrectableMemError Module	642	訂正不可能なメモリエラーが **module** で発生しました。	critical

表 41: ServerControl からのトラップ (SC.mib)

5.3.18 ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2.2.10.20

この項には、ServerControl からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
sc2TrapAcFail	2040	特定のキャビネットでメイン電源が故障しました。このトラップは、UPS または BBU を持たない拡張記憶装置でのみ発生します。サーバにはこのトラップを送信するだけの時間がありません。	critical
sc2TrapBatteryVoltage Prefail	2054	バッテリーの故障が予測されます。	major
sc2TrapBiosSelftest Error	2005	BIOS セルフテスト中に重大なエラーが発生しました。このエラーに注目し、エラーの原因を解決してください。	critical

表 42: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
sc2TrapBootMessageLogEntry	2102	エラーメッセージがシステムボードのメッセージログに記録されました。このイベントは、サーバ管理エージェント起動前にエラーが発生した場合や、特定のトラップがないエラーの場合に発生する可能性があります。詳細はサーバ管理メッセージログをご覧ください。	major
sc2TrapBootRetryCountZero	2095	電源 ON 時にブートリトライカウンタが 0 になりました。	major
sc2TrapCabinetSwitchedOff	2090	キャビネットの電源が切断されました。メインキャビネットの電源が切断された場合は、このメッセージは送信されません。	informational
sc2TrapCabinetSwitchedOn	2091	キャビネットの電源が投入されました。	informational
sc2TrapCommunicationEstablished	2002	サーバ管理コントローラーとの通信が再び確立されました。	informational
sc2TrapCommunicationFailure	2001	サーバ管理コントローラーとの通信が切断されました。	minor
sc2TrapControllerSelftestError	2004	サーバ管理コントローラーのセルフテスト中にエラーが発生しました。	critical
sc2TrapControllerSelftestWarning	2003	サーバ管理コントローラーのセルフテストの警告です。	minor
sc2TrapCorrectableMemErrorAddr	2060	特定のアドレスで訂正可能なメモリエラーが検出されました。	informational

表 42: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
sc2TrapCorrectableMemErrorBank	2062	特定のバンクで訂正可能なメモリエラーが検出されました。	informational
sc2TrapCorrectableMemErrorModule	2064	特定のモジュールで訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	informational
sc2TrapCorrectableMemError	2066	場所は特定できませんが、訂正可能なメモリエラーが検出されました。	informational
sc2TrapCpuPrefail	2081	CPU の故障が予測されます（故障予兆）。	major
sc2TrapCpuSpeedChanged	2080	CPU 温度が高温となったため、CPU クロック周波数が変更されました。	informational
sc2TrapDcFail	2041	特定のキャビネットで DC 電源が故障しました。 これはシステムの電源センサ監視の結果です。このエラーが発生すると、システムが停止します。	critical
sc2TrapFanAdded	2010	指定されたホットプラグファンが取り付けられました。	informational
sc2TrapFanCritical	2013	指定されたファンが、近い将来故障する可能性があります。	major
sc2TrapFanFailed	2014	指定されたファンが故障しました。	critical
sc2TrapFanOk	2012	指定されたファンが正常に戻りました。	informational
sc2TrapFanRemoved	2011	指定されたホットプラグファンが取り外されました。	informational
sc2TrapIntrusionAssertion	2110	フロント扉または筐体カバーが開かれました。	major

表 42: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
sc2TrapIntrusionChanged	2112	フロント扉または筐体カバーが開かれる、または閉じられました。	major
sc2TrapIntrusionDeassertion	2111	フロント扉または筐体カバーが閉じられました。	informational
sc2TrapMemErrorModuleFailing	2069	メモリモジュールが故障しました。	major
sc2TrapMemErrorModulePrefail	2068	メモリモジュールの故障が予測されます（故障予兆）。	major
sc2TrapMemErrorModuleReplaced	2070	メモリモジュールが故障し、ホットスペアメモリに切り替わりました。	major
sc2TrapMessageLogFull	2100	システムイベントログ（メッセージログ）が一杯になりました。これ以上のメッセージはロギングできません。wrap-around ログタイプではこのトラップは発行されません。	minor
sc2TrapMessageLogWarning	2101	システムイベントログエントリ数が、警告閾値を超えました。	minor
sc2TrapOnBattery	2042	UPS はバッテリー電源またはバックアップ電源ユニット（BBU）からの電流で作動しています。このトラップは、メイン電源が復活するか、システムの電源が切断されるまで、1 分おきに繰り返し送信されます。	critical
sc2TrapOnMains	2043	停電後、主電源が回復しました。	informational
sc2TrapPowerOffTimeReached	2092	電源切断時間になりました。	informational

表 42: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
sc2TrapPowerSupplyAdded	2030	1 台のホットリプレース電源が取り付けられました。	informational
sc2TrapPowerSupplyCritical	2033	電源の状態が危険な状態に近づいています。	critical
sc2TrapPowerSupplyFailed	2034	1 台のホットリプレース電源が故障しました。	major
sc2TrapPowerSupplyOk	2032	電源が動作を再開しました。	informational
sc2TrapPowerSupplyRedundancyLost	2036	電源の冗長性 ID が無効になりました。	minor
sc2TrapPowerSupplyRemoved	2031	1 台のホットリプレース電源が取り外されました。	informational
sc2TrapRedundantFanFailed	2015	指定された冗長ファンが故障しました。	major
sc2TrapRedundantPowerSupplyFailed	2035	冗長ホットリプレース電源が故障しました。	major
sc2TrapServerShutdown	2093	サーバの電源切断を予告するメッセージです。	informational
sc2TrapSevereSystemError	2006	重要問題発生後、システムが再起動されました。詳細情報は、サーバ管理メッセージログ（復旧ログ）をご覧ください。	critical
sc2TrapShutdownCancelled	2094	サーバのシャットダウンがユーザによりキャンセルされました。	informational
sc2TrapTempCritical	2022	指定した温度センサで温度が危険レベルに達しました。可能であればシステムがシャットダウンされ、電源が切断されます。	critical
sc2TrapTempOk	2020	指定した温度センサで温度が正常範囲内に戻りました。	informational

表 42: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
sc2TrapTempSensorOk	2023	故障した温度センサが正常に戻りました。	informational
sc2TrapTempSensorBroken	2024	指定した温度センサが故障しました。	major
sc2TrapTempWarning	2021	指定した温度センサで温度が警告レベルに達しました。	major
sc2TrapTest	2000	トラップ接続を確認するためのテストトラッです。	informational
sc2TrapUncorrectableMemError	2067	場所は特定できませんが、訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	critical
sc2TrapUncorrectableMemErrorAddr	2061	特定のアドレスで訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	critical
sc2TrapUncorrectableMemErrorBank	2063	特定のバンクで訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	critical
sc2TrapUncorrectableMemErrorModule	2065	特定のモジュールで訂正不可能なメモリエラーが検出されました。	critical
sc2TrapVoltageOk	2050	電源装置の電圧が再び正常範囲内に戻りました。	informational
sc2TrapVoltageFailed	2053	電源装置の電圧が既定値外です。	critical
sc2TrapVoltageTooHigh	2052	電源装置の電圧が高すぎます。	critical
sc2TrapVoltageTooLow	2051	電源装置の電圧が低すぎます。	critical
sc2TrapDrvMonEventMessage	2150	ドライバ監視が通知イベントを検出しました。	informational
sc2TrapDrvMonEventWarning	2151	ドライバ監視が警告イベントを検出しました。	minor

表 42: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

トラップ名	ID	意味	重要度
sc2TrapDrvMonEventError	2152	ドライバ監視がエラーイベントを検出しました。	major

表 42: ServerControl からのトラップ (SC2.mib)

5.3.19 ServerView からのトラップ (ServerView.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

この項には、ServerView からのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
sniSvGenericTrapForward	700	ServerView のアラーム信号を受信しました。	informational
sniSvPagerOff	701	ポケットベルが電源切断されます。	informational
sniSvPassThroughTrapForward	703	イベントマネージャによって転送されたトラップです。オリジナルのサーバ名と重要度は保持されます。	informational
sniSvServerStateChanged	702	サーバの状態（管理可能／不可能）が変更されたときに、Operations Manager によって生成されます。	informational

表 43: ServerView traps

5.3.20 ServerView ステータスからのトラップ (Status.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231.2.10.2

この項には、ServerView ステータスからのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
sieStTrapStatusChanged	1100	サーバでシステムのステータスが変わりました。	informational

表 44: ServerView ステータスからのトラップ

5.3.21 テープドライブからのトラップ (tapealrt.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.11.2.3.9.7.1

この項には、テープドライブからのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap1	1	テープドライブにデータ読み取りの問題があります。損失したデータはありませんが、テープのパフォーマンスが低下しています。	minor
tapeAlertTrap2	2	テープドライブにデータ書き込みの問題があります。損失したデータはありませんが、テープ容量が減少しています。	minor
tapeAlertTrap3	3	データの読み取りまたは書き込み中に、ドライブで解消 d けいないエラーが発生したため、処理が停止しています。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap4	4	データにリスクがあります。 1. 必要なデータをこのテープからコピーします。 2. このテープは今後使用しないでください。 3. 別のテープで処理を再開します。	critical
tapeAlertTrap5	5	テープが破損しているか、またはドライブが故障しています。テープドライブの供給元のサポートに連絡します。	critical
tapeAlertTrap6	6	テープが故障したバッチから派生しているか、またはテープドライブが故障しています。 1. 良好なテープを使用してドライブをテストしてください。 2. 問題が解決しない場合は、テープドライブの供給元のサポートに連絡してください。	critical
tapeAlertTrap7	7	テープカートリッジが計算された寿命に達しました。 1. 必要なデータを別のテープにコピーします。 2. 古いテープを廃棄します。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap8	8	テープカートリッジがデータ用ではありません。テープにバックアップしたデータにリスクがあります。カートリッジをデータ用テープに交換してください。	minor
tapeAlertTrap9	9	書き込み保護されたカートリッジに書き込もうとしています。書き込み保護を解除するか、または別のテープを使用してください。	critical
tapeAlertTrap10	10	テープドライブが使用中なのでカートリッジを取り出せません。処理が完了するまで待機してから、カートリッジを取り出してください。	informational
tapeAlertTrap11	11	ドライブ内のテープはクリーニングカートリッジです。バックアップまたはリストアするには、データ用テープを挿入してください。	informational
tapeAlertTrap12	12	このドライブでサポートされていないタイプのカートリッジを取り付けようとしています。	informational
tapeAlertTrap13	13	ドライブ内のテープがスナップされたため、処理が失敗しました。 1. 古いテープを廃棄します。 2. 別のテープで処理を再開します。	critical

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap14	14	ドライブ内のテープがスナップされたため、処理が失敗しました。 1. テープカートリッジを抽出しようとしないでください。 2. テープドライブの供給元のサポートに連絡します。	critical
tapeAlertTrap15	15	テープカートリッジ内のメモリが失敗したため、パフォーマンスが低下しています。カートリッジを今後のバックアップ処理に使用しないでください。	minor
tapeAlertTrap16	16	テープドライブが書き込みまたは読み込み操作中にテープカートリッジが手動で取り出されたため、処理が失敗しました。	critical
tapeAlertTrap17	17	読み取り専用のカートリッジがこのドライブに取り付けられました。カートリッジは書き込み保護として表示されます。	minor
tapeAlertTrap18	18	テープカートリッジ上のディレクトリが破損しています。ファイル検索のパフォーマンスが低下します。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap19	19	テープカートリッジが寿命に近づいています。以下のことを推奨します。 1. 次のバックアップには別のテープカートリッジを使用します。 2. データのリストアが必要となる場合に備えて、このテープカートリッジを安全な場所に保管します。	informational
tapeAlertTrap20	20	テープドライブのクリーニングが必要です。 1. 処理が停止している場合は、テープを取り出してドライブをクリーニングします。 2. 処理が停止していない場合は、完了するまで待ってからドライブをクリーニングします。	critical
tapeAlertTrap21	21	テープドライブを日常的にクリーニングする必要があります。 1. 現在の処理が終わるまで待ちます。 2. クリーニングカートリッジを使用します。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap22	22	テープドライブで最後に使用したクリーニングカートリッジが消耗していました。 1. 消耗したクリーニングカートリッジを廃棄します。 2. 現在の処理が終わるまで待ちます。 3. 新しいクリーニングカートリッジを使用します。	critical
tapeAlertTrap23	23	テープドライブで最後に使用したクリーニングカートリッジが無効なタイプでした。 1. このクリーニングカートリッジはこのドライブで使用しないでください。 2. 現在の処理が終わるまで待ちます。 3. 有効なクリーニングカートリッジを使用してください。	critical
tapeAlertTrap29	29	テープドライブの定期保守が必要です。テープドライブのユーザマニュアルでデバイス固有の定期保守タスクを確認するか、またはテープドライブの供給元のサポートに連絡してください。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap30	30	テープドライブにハードウェア故障があります。 1. テープまたはマガジンを取り出します。 2. ドライブをリセットします。 3. 処理を再開します。	critical
tapeAlertTrap31	31	テープドライブにハードウェア故障があります。 1. テープドライブをオフにしてから再度オンにします。 2. 処理を再開します。 3. 問題が解決しない場合は、テープドライブの供給元のサポートに連絡してください。	critical
tapeAlertTrap32	32	テープドライブにホストインターフェースの問題があります。 1. ケーブルとケーブル接続を確認します。 2. 処理を再開します。	minor
tapeAlertTrap33	33	処理が失敗しました。 1. テープまたはマガジンを取り出します。 2. テープまたはマガジンを挿入し直します。 3. 処理を再開します。	critical

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap34	34	このテープドライブに適していないファームウェアを使用しようとしたため、ファームウェアのダウンロードが失敗しました。正しいファームウェアを取得して、もう一度試してください。	minor
tapeAlertTrap35	35	テープドライブ内部の環境条件が、湿度仕様を超過しています。	minor
tapeAlertTrap36	36	テープドライブ内部の環境条件が、温度仕様を超過しています。	minor
tapeAlertTrap37	37	テープドライブへの電圧供給が仕様を超過しています。	minor
tapeAlertTrap38	38	テープドライブのハードウェア故障が予測されました。テープドライブの供給元のサポートに連絡します。	critical
tapeAlertTrap39	39	テープドライブにハードウェア故障がある可能性があります。拡張診断を実行して、問題を確認して診断してください。拡張診断テストを実行するデバイス固有の手順について、テープドライブのユーザマニュアルで確認してください。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap40	40	チェンジャーメカニズムがテープドライブと通信できません。 1. オートローダをオフにしてからオンにします。 2. 処理を再開します。 3. 問題が解決しない場合は、テープドライブの供給元のサポートに連絡してください。	critical
tapeAlertTrap41	41	以前のハードウェア故障によってテープがオートローダ内に残っています。 1. 空のマガジンを挿入して故障を修復します。 2. 故障が修復されない場合は、オートローダをオフにしてからもう一度オンにします。 3. 問題が解決しない場合は、テープドライブの供給元のサポートに連絡してください。	critical
tapeAlertTrap42	42	オートローダのメカニズムに問題があります。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap43	43	オートローダのドアが開いているため、処理が失敗しました。 1. オートローダのドアから障害物を取り除きます。 2. マガジンを取り出してもう一度取り付けてください。 3. 故障が修復されない場合は、オートローダをオフにしてからもう一度オンにします。 4. 問題が解決しない場合は、テープドライブの供給元のサポートに連絡してください。	critical
tapeAlertTrap44	44	オートローダにハードウェア故障があります。 1. オートローダをオフにしてからもう一度オンにします。 2. 処理を再開します。 3. 問題が解決しない場合は、テープドライブの供給元のサポートに連絡してください。	critical
tapeAlertTrap45	45	オートローダはマガジンなしで動作できません。 1. マガジンをオートローダに挿入します。 2. 処理を再開します。	critical

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap46	46	チェンジャーメカニズムのハードウェア故障が予測されました。テープドライブの供給元のサポートに連絡します。	minor
tapeAlertTrap256	256	ライブラリメカニズムがドライブと通信できません。 1. ライブラリをオフにしてからオンにします。 2. 処理を再開します。 3. 問題が解決しない場合は、ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	critical
tapeAlertTrap257	257	ライブラリメカニズムに問題があります。問題が解決しない場合は、ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	minor
tapeAlertTrap258	258	ライブラリにハードウェア故障があります。 1. ライブラリをリセットします。 2. 処理を再開します。デバイスをリセットするためのデバイス固有の手順については、ライブラリのユーザマニュアルを確認してください。	critical

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap259	259	ライブラリにハードウェア故障があります。 1. ライブラリをオフにしてからもう一度オンにします。 2. 処理を再開します。 3. 問題が解決しない場合は、ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。デバイスの電源のオン / オフを切り替えるためのデバイス固有の手順については、ライブラリのユーザマニュアルを確認してください。	critical
tapeAlertTrap260	260	ライブラリメカニズムにハードウェア故障がある可能性があります。拡張診断を実行して、問題を確認して診断してください。拡張診断テストを実行するためのデバイス固有の手順については、ライブラリのユーザマニュアルを確認してください。	minor
tapeAlertTrap261	261	ライブラリにホストインターフェースの問題があります。 1. ケーブルとケーブル接続を確認します。 2. 処理を再開します。	critical
tapeAlertTrap262	262	ライブラリのハードウェア故障が予測されました。ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap263	263	ライブラリの定期保守が必要です。デバイス固有の定期保守タスクについてライブラリのユーザマニュアルを確認するか、またはライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	minor
tapeAlertTrap264	264	ライブラリ内部の一般環境条件が、湿度仕様を超過しました。	critical
tapeAlertTrap265	265	ライブラリ内部の一般環境条件が、温度仕様を超過しました。	critical
tapeAlertTrap266	266	ライブラリへの電圧供給が仕様を超過しています。電源ユニットの潜在的な問題か、または冗長電源の故障があります。	critical
tapeAlertTrap267	267	以前のハードウェア故障によって、カートリッジがライブラリ内に残っています。 1. 空のマガジンを挿入して故障を修復します。 2. 故障が修復されない場合は、ライブラリをオフにしてからもう一度オンにします。 3. 問題が解決しない場合は、ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	critical

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap268	268	ドライブにカートリッジを取り出す際の、またはライブラリメカニズムにカートリッジをスロットから取り出す際の潜在的な問題があります。問題が解決しない場合は、ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	minor
tapeAlertTrap269	269	ライブラリメカニズムに、カートリッジをスロットに配置する際の潜在的な問題があります。問題が解決しない場合は、ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	minor
tapeAlertTrap270	270	ドライブまたはライブラリメカニズムに、カートリッジの取り付け、または互換性のないカートリッジの潜在的な問題があります。	minor
tapeAlertTrap271	271	ライブラリのドアが開いているため、処理が失敗しました。 1. ライブラリのドアから障害物を取り除きます。 2. ライブラリのドアを閉めます。 3. 問題が解決しない場合は、ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	critical
tapeAlertTrap272	272	ライブラリのメディアインポート / エクスポートメールスロットに機械的な問題があります。	critical

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap273	273	ライブラリはマガジンなしで動作できません。 1. マガジンをライブラリに挿入します。 2. 処理を再開します。	critical
tapeAlertTrap274	274	ライブラリのセキュリティが侵害されました。	minor
tapeAlertTrap275	275	ライブラリのセキュリティモードが変更されました。ライブラリがセキュアモードになったか、またはライブラリがセキュアモードを終了しました。	informational
tapeAlertTrap276	276	ライブラリが手動でオフラインになり、使用できなくなりました。	informational
tapeAlertTrap277	277	ライブラリ内部のドライブがオフラインにされました。	informational
tapeAlertTrap278	278	ライブラリメカにズムのバーコードラベルまたはスキャナハードウェアに潜在的な問題があります。問題が解決しない場合は、ライブラリの供給元のサポートに連絡してください。	minor

表 45: テープからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
tapeAlertTrap279	279	ライブラリでインベントリに不整合が検出されました。 1. ライブラリのインベントリをやり直して、不整合を解消します。 2. 処理を再開します。ライブラリインベントリをやり直すための具体的な手順について、アプリケーションのユーザマニュアルまたはハードウェアのユーザマニュアルを確認してください。	critical
tapeAlertTrap280	280	この時点で無効なライブラリ処理が試行されました。	minor

表 45: テープからのトラップ

5.3.22 teamserver（Fujitsu）からのトラップ

この項では、teamserver（Fujitsu）からのトラップについて説明します。

ASM PRIVATE COMMIB からのトラップ (Asmpro.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.3764.3

トラップ名	ID	意味	重要度
trapACFail	13	AC 電源が失敗しました。	major
trapAssetChange	23	資産が変更されました。	major
trapBatteryFail	15	UPS バッテリーが失敗しました。	major
trapBusUtilization	8	バス使用率がしきい値を超過しました。	major
trapBiosEventLog	20	BIOS に新しいイベントログがあります。	major
trapBiosEventLog Utlization	21	BIOS イベントログ使用率がしきい値を超過しています。	major
trapChassisIntrusion	16	シャーシ侵入が発生しました。	major
trapCPUAbnormal	22	CPU に内部エラーがあります。	major
trapCPUUtilization	7	CPU 使用率がしきい値を超過しました。	major
trapECC1BitError	3	EEC 1 ビットエラーが発生しました。	major
trapECCMBitError	4	EEC マルチビットエラーが発生しました。	critical
trapFanStop	5	いずれかのファンが動作を停止しました。	major
trapFuseFail	17	ヒューズが失敗しました。	major
trapMemoryUtilization	9	メモリ使用率がしきい値を超過しました。	major

表 46: ASM PRIVATE COMMIB からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
trapNICCounter	11	NIC 統計カウンタがしきい値を超過しました。	major
trapPowerFanFail	14	いずれかの電源サブシステムファンが失敗しました。	major
trapPSFail	12	いずれかの電源ユニットが失敗しました。	major
trapRPSFail	18	冗長電源ユニットが失敗しました。	major
trapRPSFanFail	19	冗長電源ユニットファンが失敗しました。	major
trapTemperatureCritical	2	温度が 2 次レベルしきい値を超過しました。	critical
trapVoltage	6	いずれかの電圧読み取り値が安全動作範囲を超過しています。	major
trapVolumeUtilization	10	ボリューム使用率がしきい値を超過しています。	major

表 46: ASM PRIVATE COMMIB からのトラップ

LDCM MIB からのトラップ (Ldcm.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.343.2.5.1.2

トラップ名	ID	意味	重要度
ldcmCriticalTrap	5	マネージャが重大度「危険」のイベントを報告しました。	critical
ldcmFatalTrap	6	マネージャが重大度「致命的」のイベントを報告しました。	critical
ldcmInfoTrap	2	マネージャが「情報」イベントを報告しました。	informational
ldcmOkTrap	3	マネージャが重大度「OK」のイベントを報告しました。	informational
ldcmUnknownTrap	1	マネージャが「不明」のイベントを報告しました。	informational
ldcmWarningTrap	4	マネージャが重大度「警告」のイベントを報告しました。	minor

表 47: LDCM MIB からのトラップ

LDSM MIB からのトラップ (Ldsm.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.343.2.5.1.3

トラップ名	ID	意味	重要度
ldsmCriticalTrap	4	マネージャが「**Critical**」エラークラスのイベントを報告しました。	critical
ldsmInformationalTrap	2	マネージャが「**Informational**」エラークラスのイベントを報告しました。	informational

表 48: LDSM MIB からのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
ldsmOkTrap	1	マネージャが「**OK**」エラークラスのイベントを報告しました。	informational
ldsmWarningTrap	3	マネージャが「**Warning**」エラークラスのイベントを報告しました。	minor

表 48: LDSM MIB からのトラップ

5.3.23 スレッシュホールドからのトラップ (Trap.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.231

この項には、スレッシュホールドからのトラップがアルファベット順に記載されています。

トラップ名	ID	意味	重要度
sniInvDeltaTrap Underflow	131	相対閾値の下限を超えました。このトラップは、投じられた変数の 1 つが、ユーザに指定された範囲外であることを意味します。変数は sniInvPollAlarm フィールドに 相対閾値を超えました。	informational
sniInvPollDeltaExceed	130	相対閾値を超えました。このトラップは、投じられた変数の 1 つが、ユーザに指定された範囲外であることを意味します。変数は sniInvPollAlarm フィールドに相対閾値を超えました。	informational

表 49: スレッシュホールドからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sniInvPollTrapExceed	128	相対閾値を超えました。このトラップは、投じられた変数の 1 つが、ユーザに指定された範囲外であることを意味します。変数は sniInvPollAlarm フィールドに相対閾値を超えました。	informational
sniInvPollTrapUnderflow	129	相対閾値の下限を超えました。このトラップは、投じられた変数の 1 つが、ユーザに指定された範囲外であることを意味します。変数は sniInvPollAlarm フィールドに相対閾値を超えました。	informational
sniInvTrapInvalid	132	閾値が無効になりました。	informational
sniInvTrapValid	133	閾値が有効になりました。	informational
sniNTAlert	304	NT アラートメッセージがイベントログに書き込まれました。	informational
sniNTChangeSecurity	302	セキュリティが変更されました。	informational
sniNTChangeTime	305	時刻の変更または、不均衡な時刻の調整が行われました。	informational
sniNTDownServer	300	サーバをダウンします。	informational
sniNTEventLogError	330	イベントログにエラーエントリが書き込まれました。	informational
sniNTEventLogFailure	334	イベントログに、監査失敗エントリが書き込まれました。	informational
sniNTEventLog Information	332	イベントログに、情報エントリが書き込まれました。	informational

表 49: スレッシュホールドからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sniNTEventLogSuccess	333	イベントログに、監査成功エントリが書き込まれました。	informational
sniNTEventLogWarning	331	イベントログに、警告エントリが書き込まれました。	informational
sniNTFileChangeAttr	322	ファイルまたはディレクトリの属性が変更されました。	informational
sniNTFileChange DirName	321	ディレクトリ名が変更、作成、または削除されました。	informational
sniNTFileChangeLast Write	324	ファイルの更新時刻が変更されました。	informational
sniNTFileChangeName	320	ファイル名が変更、作成、または削除されました。	informational
sniNTFileChange Security	325	ファイルのセキュリティが変更されました。	informational
sniNTFileChangeSize	323	ファイルサイズが変更されました。	informational
sniNTLoginUser	301	ユーザがサーバにログインしました。	informational
sniNTRegChangeAttr	311	レジストリのキーまたはそのサブツリーの属性が変更されました。	informational
sniNTRegChangeLast Write	312	レジストリのキーまたはそのサブツリーへの更新時刻が変更されました。	informational
sniNTRegChangeName	310	レジストリのキー名が変更されました。	informational
sniNTRegChange Security	313	レジストリのキーまたはそのサブツリーのセキュリティが変更されました。	informational
sniNTTrusteeChange	303	サーバで、トラスティが変更されました。	informational

表 49: スレッシュホールドからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sniNWActivateScreen	014	サーバで、画面が活性化されました。	informational
sniNWAlert	044	Netware アラートメッセージがコンソールに書き込まれました。	informational
sniNWAllocate Connection	037	接続が割り当てられました。	informational
sniNWChangeSecurity	013	サーバでセキュリティが変更されました。	informational
sniNWChangeTime	051	時刻の調整が行われました。	informational
sniNWClearConnection	009	接続が作成されました。	informational
sniNWCloseFile	050	ファイルがクローズされました。	informational
sniNWCloseScreen	021	サーバで画面が閉じられました。	informational
sniNWCreateBinderyObj	011	バインダリオブジェクトが作成されました (NetWare)。	informational
sniNWCreateObject	046	ディレクトリサービスオブジェクトが作成されました (NetWare) 。	informational
sniNWCreateProcess	028	プロセスが生成されました。	informational
sniNWDataMigration	041	ファイルデータが移動されました。	informational
sniNWDataDeMigration	042	ファイルデータが移動先から復元されました。	informational
sniNWDeactivateScreen	018	サーバ上の画面が非活性化されました。	informational
sniNWDeleteBinderyObj	012	バイナリオブジェクトが削除されました（NetWare）。	informational

表 49: スレッシュホールドからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sniNWDeleteObject	047	ディレクトリサービスオブジェクトが削除されました（NetWare）	informational
sniNWDestroyProcess	029	プロセスが破壊されました。	informational
sniNWDownServer	004	サーバをダウンします。	critical
sniNWExitToDos	007	サーバは DOS に抜けます。	critical
sniNWKeyWasPressed	017	サーバでキーが押されました。	informational
sniNWLoginUser	010	ユーザがサーバにログインしました。	informational
sniNWLogoutConnection	038	ユーザがサーバからログアウトしました。	informational
sniNWMLIDDeRegister	040	Multiple Link Interface Driver (MLID) がサーバからチェックアウトしました。	informational
sniNWMLIDRegister	039	Multiple Link Interface Driver (MLID) がサーバに登録されました。	informational
sniNWModifyDirEntry	022	サーバでディレクトリエントリが変更されました。	informational
sniNWModule Loaded	027	モジュール（ NLM など）が読み込まれました。	informational
sniNWModuleUnloaded	009	モジュール（NLM など）が読み込まれていません。	informational
sniNWNewPublic	032	新規パブリックシンボルが登録されました。	informational
sniNWNoRelinquish Control	023	NLM モジュールが制御を放棄していません。	critical
sniNWOpenScreen	020	サーバ上で画面が表示されました。	informational
sniNWProtocolBind	033	MLID にプロトコルがバインドされました。	informational

表 49: スレッシュホールドからのトラップ

トラップ名	ID	意味	重要度
sniNWProtocolUnbind	034	MLID からプロトコルがアンバインドされました。	warning
sniNWQueueAction	043	キューが活性化、非活性化、作成、または削除されました。	informational
sniNWRenameObject	048	ディレクトリサービスオブジェクトがリネームされました（NetWare）。	informational
sniNWSysVolume Dismounted	001	サーバでシステムボリュームがディスマウントされました。	critical
sniNWThreadSwitch	025	スレッドが切り替えられました。	informational
sniNWTrusteeChange	019	サーバでトラスティが変更されました。	informational
sniNWUpdateCursor	016	カーソル位置が更新されました。	informational
sniNWUpdateScreen	015	サーバ上の画面が更新されました。	informational
sniNWValueChanged	049	ディレクトリサービスオブジェクトの値が変更されました（NetWare）。	informational
sniNWVolSysMounted	000	システムボリュームがマウントされました。	informational
sniNWVolume Dismounted	003	サーバでボリュームがディスマウントされました。	informational
sniNWVolumeMounted	002	ボリュームがマウントされました。	informational

表 49: スレッシュホールドからのトラップ

5.3.24 UPS からのトラップ (Upsman.mib)

MIB-OID: 1.3.6.1.4.1.1356

この項には、UPS からのトラップがアルファベット順に記載されています。

UPS からのトラップ 1

トラップ名	ID	意味	重要度
communication Established	4	UPS との通信を確立しました。	informational
communicationLost	1	UPS との通信が切断されました。	critical
powerRestored	5	UPS の通常電源が回復しました。	informational
testCompleted	8	UPS テストが完了しました。	informational
testStarted	7	UPS テストが開始されました。	informational
upsOnBattery	6	UPS がバッテリー電源に切り替わりました。	major
upsOverload	2	UPS で、処理能力の 100% を超える負荷が検出されました。	critical
upsTurnedOff	3	マネージャにより UPS の電源が切断されました。	major

表 50: UPS からのトラップ 1

UPS traps 2

トラップ名	ID	意味	重要度
boostOn	6	UPS のブースターに電源が投入されました。	major
communication Established	8	UPS との通信を確立しました。	informational

表 51: UPS traps 2

トラップ名	ID	意味	重要度
communicationLost	1	UPS との通信が切断されました。	critical
lowBattery	7	バッテリーが低下しており、まもなく空になります。	critical
powerRestored	9	UPS の通常電源が回復しました。	informational
returnFromLowBattery	11	UPS はバッテリー低下状態から回復しました。バッテリーは正常です。	informational
upsDiagnosticsFailed	3	UPS の内部診断チェックに失敗しました。	critical
upsDiagnosticsPassed	10	UPS は内部診断チェックに合格しました。	informational
upsDischarged	4	UPS は今放電を終えたところです。	critical
upsOnBattery	5	UPS がバッテリー電源に切り替わりました。	major
upsOverLoad	2	UPS で、処理能力の 100% を超える負荷が検出されました。	critical
upsRebootStarted	15	UPS が再起動を開始しました。	major
upsSleeping	13	UPS がスリープモードに切り替わりました。	major
upsTurnedOff	12	マネージャにより UPS の電源が切断されました。	major
upsWokeUp	14	UPS がスリープモードから復帰しました。	informational

表 51: UPS traps 2

6　MIB の統合

Windows および Linux 上でイベントマネージャをインストールすると、Web ベースの 「**MIB Manager**」が自動的にインストールされます。

MIB Manager を使うと、プライベート MIB がイベントマネージャに統合され、ServerView によるプライベート MIB のトラップ検出が可能になります。そして万が一エラーが発生した場合、ServerView は必要な措置を実行できます。

次に、トラップタイプのフォーマットが SMIv1 の、トラップタイプの記述フォーマットの例を示します。

```
testTrap TRAP-TYPE
ENTERPRISE sniServerMgmt
VARIABLES {
trapServerName,
trapTime
}
DESCRIPTION
"Test trap to verify trap connection."
--#TYPE "Test trap"
--#SUMMARY "Test trap from server %s (no error)."
--#ARGUMENTS { 0 }
--#SEVERITY INFORMATIONAL
--#TIMEINDEX 1
--#HELP "Note: This is no error condition."
--#HELPTAG
--#STATE OPERATIONAL
::= 600
```

示されている MIB ファイルの場合、サポートされるエンタープライズストリングは 1 つだけです。

なお、次の点に注意してください。

– MIB ファイルのファイル名拡張子は、「**.mib**」です。

– 統合された MIB ファイルは削除できません。

– マルチバイト文字を含む MIB ファイルはサポートされません。

MIB Manager の起動

「**MIB Manager**」は次のように起動します。

▶ 「**イベント管理**」のメニューで、「**MIB インテグレータ**」を選択します。

MIB Manager が起動し、次の画面が表示されます。

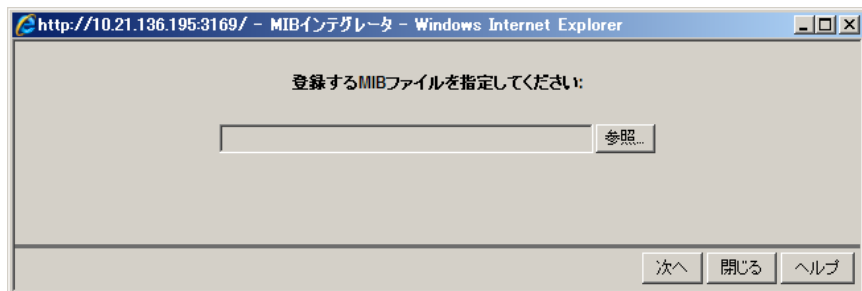



図 17: 「MIB Manager」ツール

プライベート MIB の統合は次のように行います。

▶ **参照**ボタンをクリックして、MIB が格納されているディレクトリを選択します。

▶ MIB を選択し、「**次へ**」ボタンをクリックします。MIB Manager によって、MIB の構文が正しいかどうかチェックされます。メッセージ画面でステータスが表示されます。

▶ 「**この MIB を登録する**」ボタンをクリックして MIB を統合します。

▶ 「**閉じる**」ボタンをクリックし、MIB Manager を終了します。

i サードパーティの MIB を統合したら、Java プラグインキャッシュをクリアしてください。Windows の場合、**ServerView Services** の再起動が必要です。Linux の場合、次のコマンドで **SV Services** を再起動するだけで十分です :
`/usr/bin/sv_services restart`。

統合された MIB ファイルの表示

イベントマネージャに統合されている MIB を確認するには、「**アラーム設定**」ウィンドウ（「**アラームルール - アラームの割り当て**」の「**MIB**」列）またはイベントマネージャのオンラインヘルプにアクセスしてください。

MIB の概要ウィンドウにヘルプからアクセスする手順は、85 ページ の「トラップ情報の表示」の項を参照してください。

統合された MIB ファイルのアップデート

統合された MIB ファイルはアップデートできます。統合された MIB ファイルのアップデート後の名前は、統合された MIB ファイルと同じにする必要があります。

MIB Integrator では大文字と小文字が区別されますのでご注意ください。